

## 「枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】(素案)」についてのパブリックコメント(結果公表)

「枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】(素案)」についてのパブリックコメントにつきまして、市民の皆さまからご意見をいただき、ありがとうございました。

お寄せいただきましたご意見と、ご意見に対する本市の考え方を以下のとおり公表します。

|        |                                  |
|--------|----------------------------------|
| 意見募集期間 | 平成 29 年 3 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日 |
| 意見提出者数 | 136 人                            |
| 公表意見数  | 445 件                            |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|----|---|----|---|
| 1  | トラブルが起きた時に自分たちで解決できる人間関係の基盤を築いてあげたい。実際に少人数は縦横のつながりを築くにはとても良い環境だと思う。現状では、卒業生も道で会えば挨拶をしてくれる。とても喜ばしいことだと思う。費用や、教師の配置など問題は多数あるが、検討いただきたい。大人数の多様性を求めるのは中学生からでいいと思う。                                  | 3  | 子どもは、集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていること等が望ましいことから、学校配置の適正化等によって教育環境の改善を図る必要があると考えます。また、縦横のつながりは、学校の規模に関わらず、できるものと考えています。   |
| 2  | クラス替えがあってもなくてもいじめが起こる所では起こる。それが子ども達だけで解決されるわけもなく、ほったらかしにされ、蓋をされることにより最悪の結果になったりする。横の繋がりも大事だが、縦のつながりがとれる事が、今の子ども達に必要な事ではないか。   | 1  |   |
| 3  | 枚方の小学校は学校の数が多く、小規模校が増えている。小規模校は、お互いを良く知れ、先生が一人ずつに目を向け、個々の成長を助けることが出来る。少人数学級で手厚く見て欲しい。学校をなくすことより残すことをぜひ考えてほしい。   | 6  | 小規模校は、教職員の目が児童生徒一人ひとりに行き渡り、きめ細かな指導が行ないやすい、児童同士が互いを深く理解しあえるなどのメリットがありますが、反面、交友関係が限定されやすく多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちで、競争や切磋琢磨等による社会性や協調性などの育成においては、大きな妨げとなるデメリットが認められています。また、学級間の高めあいや学びあいができなくなる(発表会の相互観賞など)、PTA活動等における保護者1人あたりの負担が大きくなる、教員数が限られる(「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律(昭和三十三年五月一日法律第百十六号)」より教員の定数が決まる)ため、緊急時に対応可能な教員数が限られることがある、教員の校務分掌の負担が適正規模校に比べ増える、学習指導や生徒指導等についての教員同士の相談や協力が行いにくくなり、指導力向上の妨げになる等のことも考えられます。小学校では小規模校になると単学級の学年が存在するため、それらは一層顕在化します。義務教育段階である小・中学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことが目的であるため、学校では単に教科等の知識等を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていること等が望ましいことから、学校配置の適正化等によって教育環境の改善を図る必要があると考えます。 |
| 4  | 小規模校の子ども達が切磋琢磨できないという教育委員会の説明は、保護者から多くの異論が出され統廃合(適正化)反対の声が大きいわいた。   | 1  |   |
| 5  | 市長は少人数学級については理解があると思う。前年の説明会では、教育委員会と、校区住民が持っている問題意識がずれており、十分なものではなかった。校区住民に理解と納得を得る行き届いた説明をお願いしたい。地域から、父母から統合してもらいたいという要望したわけではなく、現状を変更する相当な理由が必要だと思う。   | 1  |   |
| 6  | 小規模校での教育の問題点の具体的な内容がありません。唯一切磋琢磨ができないということがかかれています。しかし、先の各校での説明会でも、多くの方から批判があった。「多人数だからできる、少人数だとできない」というのは、敢えて考えられた理由だと思われる。見守る立場から言えば、少人数だからこそ切磋琢磨の様子がきめ細やかに見える。小規模校の良さについてはたくさんの保護者からの発言もあった。 | 1  |   |
| 7  | 少人数でも子供たちはすくすくと育っている所が多い。何も競争だけが教育ではないはずだ。子供のことを本当に考えてほしい。一部の利益のことだけに重きをおくのはやめてほしい。   | 1  |   |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方               |
|----|--|----|-------------------------|
| 8  | 小規模校は切磋琢磨できないとの事だが、小規模校の方がメリットが多数ある。切磋琢磨できなくはない。   | 1  |                         |
| 9  | 1クラスの数も増えるという事は子ども達に不利益になる。現在、学校現場では困難な状況があるが、統廃合を行うとますます大変になるのは目に見えている。なぜ、今のままではいけないのか。経済優先を最優先にしていると思わざるを得ない。教育は、子ども達の幸せや教育こそ最優先し、夢と希望を持てる様にするためにも統廃合はやめていただきたい。   | 1  |                         |
| 10 | 学校規模適正化について、小規模校の問題点として「単学級となるとクラス替えができない。単学級では新たな出会いや多様な考えに接する機会が少なく、人間関係が固定化、切磋琢磨できにくい」となっているが、全くその反対と考える。切磋琢磨＝競争心は大人になってからで充分だ。60年程前、子どもの作文が重要視された時、小規模校ほど、豊かな温かい作文が生まれ、1学年数人の学校もたくさんあって教育がなされてきた。  | 1  |                         |
| 11 | 説明会では、小規模校や少人数学級に対するデメリットの声はでていませんでした。また、答申や素案に書かれているような「切磋琢磨」論は、否定されているにも関わらず、まだその論を展開されていることに疑問を感じます。  | 1  |                         |
| 12 | 子供達の教育においては、少人数の方が目が届きやすく、いじめ問題なども早いうちに発覚しやすく先生と保護者の意見相互し易いのではないだろうか。  | 1  |                         |
| 13 | 「小規模校は切磋琢磨できない」とのことだが、切磋琢磨でなく、一人ひとりをしっかりみてほしい。イジメの不安もあるが、少人数であれば先生も生徒一人ひとりしっかりみてもらえるのでイジメはおきないし、学習についても集中できると思う。娘の担任だった新任の先生が「インフルエンザなどでお休みの子が8人いて、その時は30人足らずで、一人ひとりの声が聞けました」とおっしゃっていたことがあった。子どもたちが落ちついてのびのびと学習できる学校であってほしいのは全保護者が思うこと。少人数にしてクラスが増え、先生も多いと先生方も助かる。 | 1  | 1ページ NO.3にお示した考え方と同じです。 |
| 14 | 「切磋琢磨」という言葉を、このような場合に便利に使ってはいけない。  | 1  |                         |
| 15 | 学校ごとの答申の説明会に何回か参加したが、保護者・住民から「切磋琢磨」を希望する声はなかった。統合の理由に「切磋琢磨」はふさわしくない。   | 1  |                         |
| 16 | 「小規模校は切磋琢磨できない」というが、切磋琢磨でなく、一人一人しっかり見てほしい。   | 2  |                         |
| 17 | 小規模校の良い所をもっと伸ばして行こうと言う考えはないのか？   | 1  |                         |
| 18 | 小規模校に通わせる保護者として説明会に出席したが、小規模校であることが学校運営にどう支障をきたすのか、子どもたちの発達に本当にふさわしくないのか具体的な根拠は示されず、納得できない。  | 1  |                         |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方               |
|----|---|----|-------------------------|
| 19 | 中宮北小学校と高陵小学校の統合を急ぐ必要はないと考える。少子化時代における「教育のそもそも論」を充分するべきで、基本方針の将来推計にある様に、少子化が進む事になれば、なおさら少人数学級のメリットデメリットを見極める事が重要だと思う。私は父母の立場、先生の労働環境、又、西欧のクラス規模などを考えると、できる限り少人数学級で頑張ってもらいたいと思う。少人数学級を積極的に生かし、地域も活性化させる行政と住民の努力が今、求められていると思う。   | 1  |                         |
| 20 | 海外では少人数は当たり前と聞くのに、小規模校だとなぜ統合するのか。子供の事を考えていただきたい。  | 1  |                         |
| 21 | 説明会やアンケートの質問 意見からも小学生の保護者達は、教育委員会が示している「切磋琢磨」等を学校生活では重要視していないと言う意見が大多数を占めているが今回その意見はどこに反映されているのか？   | 1  |                         |
| 22 | 高陵・中宮北以降の統廃合は『答申を踏まえ』進めるなら、表現を曖昧に見せているだけで結局は説明会の声はただ聞いただけ、押しつけの方策としか思えません。説明会では、保護者や地域は望んでいましたか。一方的にこのような子供の将来まで変えてしまうような大問題を、こんな強引な私たちで進めて、責任をもっていただけなのでしょうか。完全なる押しつけです。切磋琢磨が必要だとただそればかり伝わってきますが、今の置かれた環境でもいろいろな場面で経験できています。中学からやスポーツの習い事の場でも十分です。小学生の基礎の段階では、一人ひとりに手厚く寄り添っていただきたい。今回の方策は教育の充実と逆行しています。少人数のいいところを勉強してくださいましたか？大規模の教育環境、現場の声を聞かれましたか？とにかく、市民の声をもってきいてください。今回の方針案、答申と結局同じ内容に、あまりにも一方的で、理解しがたいです。 | 1  | 1ページ NO.3にお示した考え方と同じです。 |
| 23 | 高陵小と中宮北小ができる限り早期に統合を実施とされている。小規模化によって学習環境に支障をきたすと指摘されているが、むしろ、少人数であることは行き届いた学習が保障され、教師もゆとりを持って子ども達に接することができるというプラス面もある。   | 1  |                         |
| 24 | 少子化は枚方だけでなく日本全体が抱える問題であり、各地の自治体でも議論がなされている所だが、枚方市はそもそも議論を始めるのが遅かったのではないかと。枚方市の案はあまりに早急で安直で、大人に都合のいい理論ばかりで到底納得できない。主役は子供たちである。子供の未来のためにどうすればいいのか、今一度原点に立ち返っていただきたい。我が子は小規模校で6年間過ごしたが、挙げられるデメリットは全く感じない。少人数学校をむしろウリにする自治体もある。もっといろんなケースを議論すべきである。   | 1  |                         |
| 25 | 「単学級では新たな出会いや多様な考えに接する機会が少なく人間関係が固定化され、お互いに切磋琢磨できにくい状況になる。」とあった。確かに人間関係がこじれた場合の修復が難しいという面は多少あると思う。しかし、単学級のデメリットといえば、それくらいで、子どもたち一人ひとりに目がゆき届き、お互いの理解もより深まり、教育条件にも恵まれメリットの方が90%を超えているように感じる。  | 1  |                         |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|----|--|----|---|
| 26 | 小規模校が「単学級となる学年が存在し、クラス替えができない学年ができる。単学級では新たな出会いや多様な考えに接する機会が少なく人間関係が固定化され、お互いに切磋琢磨できにくい状況になる」と書かれている。そういうデメリットが全くないとは言わないが、少人数学級にする、先生をふやして対応するなど、少し予算をかけ、きめ細やかな対応をすることで対処できると思う。逆に通学路が遠くなる、2つの学校が1つになることで起きる子ども同士の衝突などの心配、デメリットの方が大きいと思う。   | 1  | 1ページ NO.3にお示した考え方と同じです。   |
| 27 | 小規模校の統合等のメリットの押し付けが依然となら変わっていない。説明会でも多くの小規模校のメリットが出ていたが一切反映されていない。ただし総論としてはこれ以上変えようのないのも事実なのでこれで一定の理解を醸成し、各論では地域毎の特性を踏まえ検討をするようにしてほしい。   | 1  | 子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう小規模校の解消を最優先課題として取り組む必要があります。このため、学校統合には保護者や地域コミュニティなどの理解と協力を求め、実施プランの策定には地域の特性を踏まえながら十分な協議、検討を行い進めてまいります。   |
| 28 | 小学校は地域コミュニティの中心的な役割を果たすところと考える。小規模校だからこそ、地域との結びつきがより豊かになっている。  | 1  |   |
| 29 | 少人数の何がいけないのか全くわからない。招提北中はとても落ち着いていて、いじめも学級崩壊もない。大切な中学校をなくす計画はやめてほしい。   | 1  | 小規模校は、交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちで、競争や切磋琢磨等による社会性や協調性などの育成においては、大きな妨げとなり、児童生徒の教育環境や学校運営において課題があると考えています。また、高陵小学校、中宮北小学校以外の取り組みは、児童生徒数の推移を注視し、5年程度を目途として改めてお示ししてまいります。   |
| 30 | 私は西牧野小学校で3人の子どもを学ばせて頂いた。小規模校といっても地方のような(過疎地のような)少人数でもなく、適度な競争もあり、一番大切な先生とは、身近な関係の中で、目が届きやすく1人1人がていねいにみてもらっている安心感があった。全国的に学力の高いといわれる県では多くは少人数で、小規模だ。また、地域の役員をしているが、コミュニティは学校を中心に成り立っており、これ以上広域になると集まるのも大変になる。超高齢化社会に対応する地域づくりが大切となる中で、皆が努力しているが、統合ではそれに逆行することになるのでは、と思う。現在、学校を中心に地域は安定していると感じている。住民主体でといわれるなら統合はやめていただきたい。小中一貫校についてもメリットは考えられない。経費節約だけが目的ではないか。今回提案の適正化方針には反対だ。 | 1  |   |
| 31 | 少人数制、大賛成である。少ない子供達をもっと大事にしてほしい。簡単に合併するとか、やめてほしい。この東香里の地域で子供達を伸び伸びと生活させてあげてほしい。   | 1  |   |
| 32 | 「少人数では切磋琢磨できにくい」と述べられているが、どの子ども基礎学力が身につくよう丁寧な教育を行うには、一クラス20名程度が望ましいと考えます。少人数学級を展望した基本計画を望む。  | 1  | 本市教育委員会では、独自の少人数学級編成(1学級35人)を小学校4年生まで導入しています。更に、支援学級在籍児童については、在籍数をダブルでカウントする本市独自の学級編成を行っています(国は「公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律(昭和三十三年五月一日法律第百十六号)により小学校1年生のみ1学級35人で2年生以上は1学級40人と定めている。)。また、少人数学級編成に不足する教員は市費で雇用し、少人数授業などは中学校においても実施しており、集団の中での成長と個に応じた指導における成長の両面を大切にしています。 |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|--|----|--|
| 33 | 「小さな学校、小さなクラス」は世界の流れであり、特にフランスは最も小規模でクラス替えもない。米国は、更に小さな学校へという見直しがされ、WHO(世界保健機構)では「100人を上回らない学校」を勧告している。  | 1  | 義務教育段階の学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家社会の形成者としての基本的資質を養うことを目的としています。このため、学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を十全に行うためには、一定の規模の児童生徒集団が確保されていることや、経験年数、専門性、男女比等についてバランスのとれた教職員集団が配置されていることが望ましいものと考えられます。このようなことから、一定の学校規模を確保することが重要となります。また、WHOの学校基準につきましては、その基準を示した文書そのものについて確認することができておりません。 |
| 34 | 学校規模と教育的効果については相関関係がないとするのが教育学の通説である。小さな学校では、子どもの学校への帰属意識、愛着がつよくなり、学習への態度も積極的になるという。そこでは、いじめが起りにくく、起こってもすぐ気づき、すぐみんなで適切に対応できる。文科省データもそれを傍証しており、WHO(世界保健機構)は、諸調査研究を集約し、学校規模100人以下を勧告している。クラス替えがなく、クラス担任が替わらず、みんながよく知り合い、地域の人々との交流が深まる「小さな学校」が理想であり、諸外国ではそれが普通である。国の学校「適正規模」基準は、統合のための補助金支出・誘導基準であり、教育的観点の基準ではない。コスト削減と公教育の序列的再編のために学校統廃合が多用されているのが実態である。   | 1  |  |
| 35 | 高槻市のように小人数教育に力をいれている所に対して枚方市教育委員会はどのような見解がありますか？小人数学級では切磋琢磨出来ないから子供にとってよくない環境だと感じておられるのですか？  | 1  | 本市教育委員会におきましては、1クラス35人の少人数学級編成制度を1～4年生まで実施しており、支援学級在籍児童も人数に含めたものとしています。更に算数、国語等の教科においては高学年を中心に「少人数指導」も実施しています。義務教育段階の学校は、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、社会性や協調性を育成するためには多くの児童と接し、多様な考え方に触れることができる一定の学校規模を確保することが重要となります。このことから、今回、子どもたちのより良い教育環境の確保のため基本方針【改定版】を取りまとめたものです。   |
| 36 | 少子化の流れの中、財政的・経営的・効率面だけで学校教育・教育環境・施設・設備等を考えて良いものであろうか、大いに疑問が残る。この答申は、行政上の都合、合理主義が前面に出た答申であると思わざるを得ない。適正規模はあくまで適正規模であり、ここで言う過密校(過大規模校)になれば当然手立てが必要であることは理解できる。しかし、これまで(過去)の学校の設置、とりわけ統廃合に至った学校の考察・分析等が見られないのは残念である。行政上、通達・実施してしまえばそれで解決するのか甚だ疑問に感じる。学校規模については、これまで様々な知恵を出し合い・困難を乗り越えて現状にいたっていると考えられるので、課題はあっても現状を維持しそれぞれの良さを生かすべきである。昔と違い、子どもたちを取り巻く生活環境や社会環境も大きく変化した現状では、児童・生徒の数だけで判断すべきではない。それぞれの地域のコミュニティーの場になるよう取り組んでほしい。少子化の流れの中で、どこまで統廃合を進めていこうとするのか疑問が残る。検討されている事は理解できるが、早急に対応し・解決されなければ、よりよい教育が出来ないのであろうか。 | 1  | 小中学校の児童生徒数は昭和57年から61年ころのピーク時に比べ現在は半減し、小規模校が増加しています。今後、更に少子化が進むことを鑑み、統合を含む視点で多角的に考え将来を見通した取り組みを進めることが重要と考えます。学校統合は単に財政的、経営的、効率面のみを考慮して実施するのではなく、社会性や協調性を育成するため多くの児童と接し、多様な考え方に触れることができるなど、より良い教育環境の確保のため行うものです。   |
| 37 | クラス数が問題なのであれば小規模校は、少人数学級とし、クラス数を増やす等の特別措置は取れないのか？  | 1  | 本市教育委員会におきましては、1年生から4年生まで1学級35人の少人数学級編成を実施し、よりきめ細かな指導を実践しています。また、児童数は、支援学級在籍児童を含めてカウントをしています(例)1学年36人で支援学級在籍児童を1人含む一国は「1学級と支援学級(1組35人、支援学級1人)」。枚方市は「2学級と支援学級(1組18人、2組18人、支援学級1人)」小規模校であること理由で、特別措置をとることは困難です。  |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|----|--|----|---|
| 38 | <p>第3 学校規模等の適正化に関する基本方針1. 適正化の基本的な考え方 (1)学校規模 表-1</p> <p>小1~4 35人/学級 2学級/学年 70人/学年 4学年合計 280人<br/> 小5・6 40人/学級 2学級/学年 80人/学年 2学年合計 160人<br/> 合計 440人</p> <p>小1~4 35人/学級 4学級/学年 140人/学年 4学年合計 560人<br/> 小5・6 40人/学級 4学級/学年 160人/学年 2学年合計 320人<br/> 合計 880人</p> <p>基本方針では 適正規模 440人/学校 から880人/学校<br/> WHOが出している 適正規模は 100人/学校で 大きく違っているが枚方市が基本方針で出している適正規模の根拠はなんなのか。</p>   | 2  | <p>法令上、学校規模の標準は、小中学校ともに「12～18学級」と学級数により定められており、また、ただし書きで「特別な事情がある場合はこの限りでない」とされています。本市教育委員会では、適正規模を小学校は「12～24学級」、中学校は「9～24学級」としていますが、この設定については学校の運営において問題がなく、学校施設の規模においても小中学校ともに24学級までは教室を十分確保できる余裕があることから上限を24学級としています。また、学級数の下限については、小学校はクラス替えが可能な1学年2学級、中学校は、全教科の教員配置や支障なく部活動を行うための視点からも9学級としています。</p>   |
| 39 | <p>大阪市内でも12学級の小学校が続出し、むしろ児童への指導が手厚く親密になっている。</p>   | 1  | <p>本市教育委員会におきましても12学級は適正規模の範囲としている他、4年生までは35人学級(国の基準は小学校1年生のみ)にしており教員がきめ細かく支援、指導ができるようになっています。</p>  |
| 40 | <p>少人数学級の良さは現場の先生の意見を聞いてほしい。外から見て、昨年の運動会はとても良かったと思います。少人数だと活気がないなどとは言えないと思います。</p>   | 1  | <p>小規模校は、児童数が少ないことで学校全体として適正規模校と比べると、行事等の際に教育効果が下がるとの意見が文部科学省の手引きにおいても示されています。</p>  |
| 41 | <p>3才の子どもがいて、統廃合される時期に開成小に行く予定。川越小と統廃合され、クラスの人数が増えて、子どもの事をちゃんと見てもらえるのだろうか、不安に思っている。また川越小区の子どもが開成小区に来るのは、子どもの行動範囲も大分と広がり、怖い事件が増える近年、子どもを持つ親にとっては本当に不安な事である。少人数の学校や少人数のクラスでは、先生が子どもを行き届いて見れ、子どもが困っている事に気づきやすく手立てもとりやすい、と聞いている。それは子どもにとっても先生にとっても良いと思いますし、親としても、そちらを望む。小規模校に子どもが通っている友人の話を聞くと、子ども同士が和気あいあいとしてとても仲が良いこと。高学年の子が低学年の子をよくみてくれたり、親も子ども達の顔と名前を覚えていて、トラブルが起こった時も先生も親も連携をとり、みんなで子どもを見るということができやすい、保護者が先生と話をしやすく困った時も相談しやすい、などなどあげればきりが無い程、小規模校だからこそその良さがたくさんあると聞く。デメリットはPTAの役だけ。統廃合して学校を無くしてしまえば、その地域には若い人は住まなくなる。東香里小の地域も川越小の地域も、今でも高齢化が進んでいる。本当に若い人が居なくなってしまうと思う。子どもが少ない地域では地域の人達が子どもを大切にしてくれると聞く。一度無くなった学校を復活させるのはなかなかできる事ではない。子育てしやすい枚方、若い人達が住みたいと思える街にするなら、子どもを大切にする事に力を入れていただきたい。大人達から大切にされあたたかく見守られて育った子ども達は、社会のために力を発揮できる大人に成長すると思う。子どもは未来を作っていくてくれる社会の宝であり、未来そのものである。学校を潰すのは、いつでもできる。入学してくる子どもの数が一けたになってからでもいいのでは？</p> | 1  | <p>小規模校のメリットについては十分把握しており、さらに担任や教師との関係の中からも児童は育つということも承知しています。具体的には校長のリーダーシップのもと、組織的な取り組みや校内研修等を通じて、教員の資質向上に努めており、一人ひとりを大切に教育に取り組んでいます。しかし、同時に児童は、自分自身と価値の異なる児童と接することにより、自発的に学びとる喜びを感じることも必要であると考えています。さらに統合において児童数が増えることで教員数も増員となり、教員同士も互いに学びあい、質の高い授業の提供、校務分掌の負担が減り、児童に向き合える時間の増加が期待できます。1学年に複数の学級ができれば、複数の教職員の目で違った角度から子どもたちの様子を見ることができ、一体的に指導を行うことができます。教育委員会としても学校は安全、安心な場所であればならないと考えておりますので、課題があれば、地域の皆様からもご意見をいただき、教育環境の整備や安全確保について取り組んでまいります。なお、川越小学校区の適正化につきましては、児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。</p> |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|--|----|--|
| 42 | <p>一定の学校規模を確保することが重要と記載されているが、市が示している適正なクラス数になる＝切磋琢磨する。社会性が身に付く等とは到底思えず、何がどう変わるのか全く理解出来ないの、具体的に示していただきたい。我々は、統廃合の件で子ども、学校、地域の事や全国の状況等々たくさんの勉強をしてきた。説明会に参加したり勉強会を開いたりみんなが集まって意見を交換したりたくさん時間を使ってきた。子どもを一人で留守番させて説明会などへ出かける事もあり、みんな子どもと遊ぶ時間を削って、寝る時間を削ってこのコメントを書いている。しかし今まで、市教育委員会からの回答は、納得できるものが一つない。統合される学校が何か一つでも「なるほど！！それなら統合してもいいか。子ども達の為になるかも」と思える回答を頂きたい。高陵小学校が何か困っているのであれば具体的に教えていただきたい。我々の意見を真向から否定するのではなく、一度 保護者 地域の方々から伝えていただくことを受け入れて考えて頂いて検討した結果の納得できる回答をお願いしたい。今までのパブリックコメント・説明会・勉強会の回答 全てにおいて心の無い回答だと感じている。市にとって都合の悪い事は削除されていると思う。今回は、それぞれの方の意見をまとめるのではなく、一つ一つ明確に答えていただきたい。教育委員会にとって都合の悪いと思われる意見を削除する事は絶対にやめていただきたい。我々が少しでも何か感じる事、考える事が出来る、次に繋がる回答をお願いしたい。</p> | 1  | <p>小規模校では児童一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行いやすいなどメリットもありますが、反面、デメリットとして、単学級になると、同じ学年内における学級同士の高めあい（例→合唱祭における相互鑑賞など）ができなくなります。また、教員数は「公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律」より決まるため、適正規模校に比べ、同学年担当の教師間で日常における相談ができないなど課題があります。保護者負担の面で言えば、PTA活動における保護者1人あたりの負担が大きくなるなどが懸念されます。本市教育委員会では、今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、中長期的な視点に立って、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。その際には、子どもたちの夢や元気につながるよう、当該校の保護者や地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきたいと考えています。パブリックコメントにおいては、同じ意見についてはとりまとめをいたします。市に都合の悪いことを削除することは行っていません。ただし、個人情報や、事実の確認できない事案、誹謗中傷などは、掲載をいたしません。</p> |
| 43 | <p>多様な考えに触れる 認め合う 協力し合う 切磋琢磨する 人間関係が固定化されることには、一定の学校規模を確保することが重要であると示されていますが何を根拠に書かれた文章か。小規模校の中宮北小学校では 上記の事に関して「全く困っていない」と何度も伝えている。答申の説明会、勉強会でもお話している。教育委員会が把握している中宮北小学校の子ども達が「小規模校であるが為に」困っている事を「具体的」にご教示いただきたい。困っていることがあれば、早急に対応すべきと考える。</p>   | 1  | <p>文部科学省が全国の市区町村教育委員会に対して行なった学校統合による成果に関するアンケート(平成26年5月1日時点)によると、児童・生徒への直接的な効果が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的評価の高い主な項目として、「良い意味での競い合いが生まれた」が89%、「友人が増えた」は96%になります。また、「多様な意見に触れる機会が増えた」は95%、「社会性、コミュニケーション能力が向上した」は85%という結果になっています。このことからわかるように、学校統合を行い、子どもたちの教育環境の改善に努めて行きたいと考えています。</p>   |
| 44 | <p>過密・大規模校で落ち着いて授業も出来ないという環境に比べると、小規模校は工夫次第では、より良い教育が実践できるのではないかと考える。この素案では小規模校では多様な考えに触れたり切磋琢磨したり、問題解決能力等を育むことが難しいと断定していることがおかしいのではないかと考える。</p>   | 1  |  |
| 45 | <p>先般、中宮北統廃合検討委員会主催で小人数学級についてパネルディスカッションを行いました。少人数学級の科学的根拠のあるメリットについての発表をどのように感じられましたか？HPに掲載されているのでそちらをご覧くださいと言う返事ではなく、改めて教育委員会からの言葉をお聞かせください。</p>   | 1  | <p>本市教育委員会では、児童一人ひとりに対し、きめ細やかな学習支援、指導を行うため、4年生まで1学級35人の少人数学級編成を実施しています。また、算数、国語等の教科においては高学年を中心に少人数指導も実施しています。これらの少人数制のメリットを生かした教育環境を整えることは、適正規模校において十分に取り組むことができるとともに、今後も推進していく考えです。しかしながら、子どもたちに社会性や協調性を育成するためには、多くの児童と接することにより多様な考え方に触れることができる一定の学校規模を確保し、小規模校のデメリットを解消することが重要と考えています。</p>   |
| 46 | <p>1/21に中宮北小学校で開催された勉強会において、住民代表からは「中宮北小学校の良い所」「小規模校の良い所」等の意見が多数あったと思うが、この点については、教育委員会としてはどの様に考えているのか。</p>   | 1  |  |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|---|----|--|
| 47 | <p>審議会答申にあった単に中宮北小学校を廃止し高陵小学校を再利用することについては反対だが、より高所に立って検討してもなお、現実的な方策が見当たらない場合(ただしコミュニティの問題が完全に解決していることを前提と条件とする)、新小学校を当分の間、特別に統合モデル校とする。そして、クラス数を単に基準通りとするのではなく、教員の加配を十分に行うこと。さらに、今まで行っている少人数教育の利点が継続できるようにすることや北河内の小学校の実験的なモデルとなるより良い教育環境(具体的に言えば、個別教育計画の対象を全児童に拡大するなど)が実現できるような措置や方策を講じることを提案したい。このことは、コミュニティースクールの実質化を保障することにもなると思う。統合すると良くなる、という目に見える実績を作っていただきたい。</p>   | 1  | <p>今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。そして、中長期的な視点にたつて、子どもたちの夢や元気につながるよう、新しい学校を築いていく観点で進めていきます。なお、ご提案の趣旨を参考にさせていただくとともに、統合後も今までと同様、個に応じた支援や指導に努め、より良い教育環境づくりに努めてまいります。</p>   |
| 48 | <p>一学年の生徒の人数が増えると、親と子供の顔が一致せず、トラブルのフォローができない。親子で顔見知りになることもできず、防犯につながらない。校区を広げてしまうと、ご近所の子供達でも顔すら知らない関係になってしまうのではないかと心配である。人数が少ないため、現在はコミュニティなど参加すれば交流できるが、人数が増えるが参加しても交流が難しくなる。知らない人が増えれば、参加し辛くなり、悪循環ではないかと考える。親子、地域のつながりは地域の防災対策にもつながると思う。地域の地盤をつくる意味でも親の目の届く小学生の間は少人数制で、親も子も横のつながりを築く期間だと考えている。</p>  | 1  | <p>学校統合により大規模校とするものではなく、適正規模校とするものです。6年間のクラス替えを通して、現在より多くの方と顔見知りになっていただき、子育てにおける情報共有や防犯につなげていただければと願っています。統合により校区は広くなりますが、学校が別になるものではありませんので、これまでと同様に、ご近所との関係を築いていただければと願っています。統合は、子どもの教育環境の改善のために行います。そのことを、ご理解いただき、保護者の皆様におかれましても、より多く顔見知りになっていただき、地域のつながりを深めていただきたいと思います。</p>                               |
| 49 | <p>小規模であることと、1人1人が各々の関係性から成長しあうことは、必ずしも対立しない。各々成長しあう関係性を育てるには、お互い時間的にも物理的にも密接に交わり合うことが必要である。単に、たくさんいるからと言って、関係性が深まるわけではない。したがって、むしろ少人数の方が、お互いを成長し合う条件がある。少人数であっても、そこに教師の指導や援助が必要である。少人数であった方が、教師の目が行き届き、より細かく丁寧に指導・援助できることは明らかである。私も現在小規模の学校の勤務をしているが、生徒たちはお互いに理解しあい、教え合いや行事の取り組みもスムーズに行われている。また、トラブルも非常に少なく、よい人間関係が築かれている。もちろん、そこには教師の細やかで丁寧な指導・援助があることは言うまでもない。「切磋琢磨」論は、「多くの人と交わればそれだけ成長するのだろう」という、何ら根拠のない、教育的観点のない思い込みにとらわれている。ただ、競争する場合は、多人数の方がより加熱することは考えられる。しかし、はたして「競争」が、人格の形成や成長にどんな影響を与えるかは、十分吟味しなければならない。特に日本の場合、国連子どもの権利委員会から再三にわたって、日本は「過度に競争的な教育が行われており、そのことが子どものストレスを非常に高めている」と勧告されている。このことは、現在の教育に、これ以上「競争」を持ち込むことは、マイナスでしかないということだ。したがって、「切磋琢磨」論は有害ですらあると考える。</p> | 1  | <p>学校は、先生から教わるだけでなく、子ども同士の関係の中で、多様なものの見方や考え方、友達との付き合い方などを学ぶ場でもあります。そのため、小規模校になると、クラス替えが出来なくなり、6年間同じ人間関係の中で、過ごすため新しい人間関係や友人を作る機会が減るなど、子どもの成長においてデメリットとなります。少人数の方が、より深くお互いを理解しあうメリットはありますが、学校統合により、大規模校とするものではなく、適正規模校とするものです。小規模校に何ら遜色なく、より深く人間関係を築きながら、併せて、多様な考えに触れ、今より一人でも多くの友達を作る環境を整えることが、可能になると考えています。</p> |
| 50 | <p>昔は1クラス55人前後、小学校で6クラス、中学校で12クラスあり、大変な詰め込みでキメ細かい授業指導もなく、落ちこぼれた様な感じさえあった。それに対して少人数学級は、キメ細かい生徒に対する目配り、指導(学ぶ意欲の向上)を行うことが出来る。また、学校と家庭の関係も円滑になっている様に思える(信頼関係構築)。最近よくいじめや、生徒間どうし、生徒と教師どうしの問題がよく取り沙汰されているが、本市では殆んどそういう事が聞いたことがない。これも少人数学級の最大のメリットではないか。</p>   | 1  | <p>学校統合を実施しても、現在の本市教育委員会の学級編成基準(小学校1学年～4学年35人、5学年～6学年40人)に変更はないため、1クラスあたりの児童数が現在の基準を超えることはありません。</p>   |
| 51 | <p>運動場など、広いスペースで遊ばしてあげたい。</p>   | 2  | <p>小学校設置基準第8条において、児童数により運動場の必要面積が決められています。学校統合においては、運動場面積の基準を下回ることがないよう実施します。</p>  |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|---|----|--|
| 52 | <p>子どもの出生率が低くなり、将来の日本がどうなるのだろうと先ゆきが不安になる。枚方も小・中・高生が減少していることは皆、知っている。だからと言って、即、統廃合というのは全くもって浅はかな考え方だと言わざるを得ない。一般市民でもすぐ思いつく方向だ。しかし、行政はそう単純に考えるべきではなく、将来の日本のあるべき姿も考え、日本を発展、繁栄させる方向で、子どもの減少問題を考えるべきであるし、地域住民の拠り所としての機能をしっかり持たせるべきと思う。枚方を発展させる為には子どもを大切に、若いお父さん、お母さんが安心して子育てできるように、枚方市は他市に例を見ないような行政をして欲しいと思う。さすがに維新の市長さん、と言われるような子育てに暖かい手をさしのべていただきたいとお願いしたい。</p> | 1  | <p>今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。そして、中長期的な視点にたつて、子どもたちの夢や元気につながるよう、新しい学校を築いていく観点で進めていきます。小規模校については、審議会の答申をもとに、学校統合を基本方策として課題解消を図ることとしておりますが、実施においては該当する学校の児童生徒や保護者、地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。</p>                                       |
| 53 | <p>財政の問題小規模校は、財政の無駄遣い等という考え方はやめていただきたい。枚方市は、人口減少をいとめるために、教育や保育等子育てに十分なお金を使って欲しい。学校の統合問題については、市民の生活重視より、財政の効率化の考え方がばかりが見えてくるように思う。</p>   | 1  | <p>小規模校の解消は財政の健全化の面のみではなく、今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。また、人口誘導策や人口定住策を最重要施策として取り組んでおり、同時に、市の教育がめざすべきものとして「枚方市教育大綱」や「枚方市教育振興基本計画」を策定いたしました。「子どもたちが、確かな学力を身につけ、豊かな心を育み、健康に育つこと」を目指し、「すべての子どもたちの未来への可能性を最大限に伸ばす教育」を学校、保護者、地域と連携しながら、全力で取り組んでまいります。</p> |
| 54 | <p>この方針では、子どもたちを1人の人格をもった個人として大切にしようという姿勢が見られない。子どもはただの数字や駒ではない。まして予算削減の手段でもない。</p>   | 1  | <p>本市教育委員会では、児童一人ひとりに対し、きめ細かやかな学習支援、指導を行うため、4年生まで1学級35人の少人数学級編成を実施しています。また、算数、国語等の教科においては高学年を中心に少人数指導も実施しています。これらの小規模校(少人数制)のメリットを生かした教育環境を整えることは、適正規模校において十分に取り組むことができるとともに、今後も推進していく考えです。しかしながら、子どもたちに社会性や協調性を育成するためには、多くの児童と接することにより多様な考え方に触れることができる一定の学校規模を確保し、小規模校のデメリットを解消することが重要と考えています。</p>                              |
| 55 | <p>親たちはすべての子ども達にゆき届いた教育をしてほしいと願っています。それは地域住民の要求でもあります。少人数学級でゆき届いた教育ができ、学力向上していることは、他県、市町村の実態からも証明されています。規模等適正化とはゆき届いた教育を考えるものだと思います。何やかんやといいながら、そこにお金を使わないということでしょうか。税金は未来をになう子らに使ってほしい。そのことが将来いい地域、住みよい自治体になると思います。</p>  | 1  | <p>本市教育委員会では、児童一人ひとりに対し、きめ細かやかな学習支援、指導を行うため、4年生まで1学級35人の少人数学級編成を実施しています。また、算数、国語等の教科においては高学年を中心に少人数指導も実施しています。これらの小規模校(少人数制)のメリットを生かした教育環境を整えることは、適正規模校において十分に取り組むことができるとともに、今後も推進していく考えです。しかしながら、子どもたちに社会性や協調性を育成するためには、多くの児童と接することにより多様な考え方に触れることができる一定の学校規模を確保し、小規模校のデメリットを解消することが重要と考えています。</p>                              |
| 56 | <p>子育てをしながら、枚方市で働いている。「子育てするなら枚方で」と言われていたと聞いている。保育関係、そして小中学校への予算を今こそ増やし人気の枚方となってほしい。子どもたちに投資することは、社会全体への宝となる。</p>   | 1  | <p>本市では、人口減少への対応等を図るため、平成28年3月に第5次枚方市総合計画を策定しました。また、平成31年度までの期間で集中的に行っていく施策をまとめた「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これらの計画等を踏まえ、本市の出生率の向上や、市民の定住・市外からの転入の促進につながるよう、児童生徒のより良い教育環境作りを進めてまいります。</p>   |
| 57 | <p>一人ひとりに目がゆき届く単学級解消を急ぐことより、他の教育条件を整えることの方に力を入れていただきたい。[例えば、1クラスの人数(学級編成基準)を全学年30人にするとか、支援学級児童のダブルカウントの完全実施とか]</p>  | 2  | <p>公立義務教育諸学校の学級編成及び教職員定数の標準に関する法律第3条より1学級40人であることに対し、本市教育委員会では、1年生から4年生までを1学級35人の少人数学級編成とし、また、支援学級の児童生徒をダブルカウントするなど、本市独自の施策を行っています。また、国に対して更なる少人数学級の推進に関する要望を行ってまいります。</p>   |
| 58 | <p>学校運営にばかり焦点があたっており、子どもの登校時の通学路の安全確保や学童保育の運営についてや地域のコミュニティをどう守るのかについての具体策は一切みられない。小規模であっても上手にいくよう学校運営や教育予算を見直しを望む。統廃合は保護者の願いと反している。</p>  | 1  | <p>学校統合は、子どもたちの健やかな成長を第一義として、実施するものです。通学路の安全確保については十分に認識しつつ、現時点で危険箇所があれば対策を行っていく必要があると考えます。また地域コミュニティについては小学校区が基本になりますので、仮に学校が統合された場合、新たな小学校区に基づくものと考えます。その実施時期などについては、それぞれの校区コミュニティ協議会において検討されるものと認識しております。</p>   |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|---|----|--|
| 59 | 子供達は多くの友人が周りに居ることで、多様性を実感し、協調性を養って、切磋琢磨する事で積極性や負けん気や忍耐力など人格を形成して成長していくものだと思います。なので、同級生はできる限り多いほうが良いと考えます。   | 1  | 本市教育委員会では、子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け、この答申を踏まえるとともに、説明会におけるご意見も参考に「基本方針」を改定し、学校規模等のさらなる適正化に取り組んでまいります。  |
| 60 | 氷室小学校のように校区が非常に広い学校は問題があると思うが、今回方針にあげられた高陵小学校、中宮北小学校は合わせても校区がそれほど広くなく、1学年に1クラスしかない小規模校の解消をするための統合は問題ないと思う。  | 1  |  |
| 61 | 学校統合すれば、どれだけの財政メリットがあるのか。小規模校とされる学校は、児童一人当たり、たくさんの予算が当てられ、他の学校と不公平ではないだろうか。日本全国義務教育は公平でなくてはならない。その解消をしてほしい。小規模校のメリットは、不公平がもたらすメリットである。国全体の子どもが減ってきているのに、対策をしないのは行政の怠慢であるとおもう。子どものことをまず考え、そのうえで、学校統合をしてほしい。たくさんの納税者が応援をしている。 | 1  | 学校統合を実施しますと、施設運営費(市費)や人件費(府費)等の面で費用削減はできます。しかしながら、学校統合は、子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け取り組むものです。  |
| 62 | 少子化の状況の今、学校の統廃合は避けられないことは理解できるが、統廃合を行うに当たって次の視点をくれぐれも忘れないようにしてほしい。<br>1. 数値的な事だけでなく、地域の伝統文化、環境・交通アクセス・安全等の立地条件等を考慮する。<br>2. 既存の学校建物、設備等の優劣・残存価値等の評価をする。<br>3. 単に地域の有力者等による綱引きによる決定をしない。                                     | 1  | 統合については審議会より学校規模や施設規模、通学区域、小中連携、地域連携の5つの視点から総合的に検討された結果、答申をいただきました。審議会は、学識経験を有する方、市民団体又は関係団体を代表する方で構成され、互選で選出されています。今後も児童の健やかな成長と学校教育の充実を第一義に、教育環境のさらなる整備向上に向け、取り組みを進めてまいります。                                |
| 63 | 枚方だけでなく、日本の人口も子どもの数も減っていくのですから、それに応じて学校を減らす学校統合はやむを得ないと思います。そして、何れにしても統合するのであれば、遅いよりは早い方がいいと思います。統合の準備に3年間かけて取り組むとありますが、悠長なことはせず、教育環境に良いのであれば、さっさと実施するのがいいと思います。  | 1  | 学校統合は、児童生徒の教育環境向上のため実施するものであり、早期実現に向けて取り組む必要があります。しかしながら、それぞれの学校の児童が単に、一つの学校に移るのみにとどまらず、新しい学校を築く上で支えとなる校区コミュニティの再編が必要不可欠となります。そのためには、保護者や地域と十分な協議・検討を行い進める必要があります。尚、ご意見を踏まえ、統合を行う際は、出来る限り早期に実現できるよう努めてまいります。 |
| 64 | 高陵小学校は全て1クラスしかなく、1学年17人の学年もあると聞きます。地方の過疎地ならいざ知らず、こんな都市部では信じられません。1学年に1クラスしかない小規模校は、できるだけ早く解消するべきだと思います。   | 1  |  |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方                 |
|----|--|----|---------------------------|
| 65 | <p>多様な価値観、他者とのコミュニケーション能力、今、社会で必要とされているものは、何校もの小学校から集まって、何百人の中でこそ、教えられたものではない、自分の経験から育つのだと思う。メリットをあげると、子供達は小学校の間から、中学校というものを身近に感じることが出来る。漠然とした不安も、何度も校舎に通い、クラブ体験をし、先生達との交流を通し、小学校の延長に中学校があるという安心感に変わっていく。運動会や文化祭などもアットホームな雰囲気、皆が知っている子のため、親しみをもって見ることが出来る。しかし、それでもなお、100人弱の生徒の中には何人か、中学で不登校になってしまう子供達がいる。結局、不登校の子がでるのに、大半の生徒は、小学校からの代わり映えのしないメンバーで何となく、出来上がったヒエラルキーの中に安心を見つけている気がする。小学校から中学、中学から高校、高校から大学、そして、社会へ。子供達の世界は、広がっていくべきである。初めての事に対峙したとき、その足のすくむような緊張や、興奮そうといったものは、何度も経験させてあげるべきである。もちろん、その事をポジティブに捉える事ができる子もいれば、ネガティブにしか捉えられない子もいるだろう。先生方の負担が増えないように、カウンセラーや色々な工夫は必要だと思う。小学校のヒエラルキーが一気に崩れるのは、子供の成長に必要なと思う。あんなに偉そうにしてた子でも中学入ったらたいしたことなくなった。そう感じることで、皆少しずつ自分の位置を知る。俺は小学校で1番足がはやかった。でも中学入ったら、全然俺より早いやつがいる。そういう風に広がってほしい。現在、中学校では、小規模校であるがゆえに クラブの種類も少なく、先生は掛け持ちなどしている。クラブを通して初めて出会うスポーツや、活動がその子の一生の趣味となる事もたくさんある。色々な活動を行うには、先生の数も多くないと無理である。子供を大切に守るあまり、どんどん閉じた世界になるのは、子供のためにはならないと思う。親も覚悟しなければならぬ。統廃合を行い、適正な学校運営が行われる事を願う。登下校にかかる時間や安全性などを考え、自転車を認めるのか、バス通学を認めるのか、議論も分かれるところである。選択権を保護者にも残すといった事も今まではなかった、面倒な仕事になっていくだろう。親の価値観も、多様化していくなか、決してこれが正解だと思っているわけではないが、一保護者の意見として、ご一読を。</p> | 1  | 10ページ NO.63にお示した考え方と同じです。 |
| 66 | <p>枚方市の人口急増期、特に子どもが増えた時期に多くの学校を建設されて、現在は少子化で子どもが減っているのだから、それに合わせて学校を減らすのは当然だと思う。特に1学年1学級しかない小規模校は、今すぐに解消すべきである。1年毎にクラス替えがあつて、新しい友人関係ができて、子どもたちは成長していくのである。大人数の学校の子供達とは、明らかに学習環境が悪く、子どもたちは経験不足となってしまう。基本方針では、高陵小学校と中宮北小学校だけを取り組む計画で、他の小規模校は児童や生徒数の推移を注視して・となっているが、その学校でも、今、1学年1クラスしかない学級に通っている子どもにとっては、自分達が卒業した後に環境を改善されても何の意味もない。1学級の学年が1つでもあれば、即座に統合して、多くの友人と競い合い、協力し合い、助け合つて、友人の中の友人である親友を作る環境を作つてやるのが大人の務めである。一部では学校統合に反対の声が挙がっているようだが、子どもをゆとりの中で、ぬるま湯の中で、親の絶対的な保護の中で育てるのが一番だと考えている親御さんはなんなのか。または、1学年1学級の子どもの保護者ではないので、他人事なんだろう。その方らに、子どもの最も大事な成長である「人としての力」を鍛える機会や経験を、阻害していることに気づいてもらう必要があると思う。そして、自己の都合ではなく、(1学年1学級しかない境遇に置かれている一部の子ども達の環境をも向上させ)、全ての子ども達の環境改善のためであることを理解すべきである。</p>  | 1  |                           |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|----|--|----|--|
| 67 | 学校統合について、「義務教育諸学校施設費国庫負担法施行令」の通学距離限度(小学校4km)はいつの時代のものか。今ある学校を閉鎖して、4km(子どもの足では60分以上かかる)も通わせるなんてひどい話だ。学校は地域の中心であり、子、若者、老人が一体となって子育て、地域作りをしている。防災面でも学校は大事だ。   | 1  | 文部科学省から平成27年1月に出されました「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」において、「小学校では4km以内の基準は、およその目安として引き続き妥当である」と判断されています。しかしながら、単に基準以内であれば良いのではなく、統合を行う際は出来る限り、通学距離が短くなるよう配慮するとともに、統合の有無に関わらず、通学路の安全性に課題がある場合は、早急な解消に努めてまいります。また、学校の跡地活用につきましては、避難所や地域コミュニティの活動拠点であること等を踏まえ、地域の方々のご意見もお聞きしながら、活用方策について検討する必要があると考えます。   |
| 68 | 小学校区＝中学校区となる場合も生じ、児童の活動範囲が広くなり、集団形成・交流が拡がりすぎたり、安全上問題が出てきたりしないか。  | 1  | ご意見のとおり、学校統合により校区が広がることで、以前よりも児童の活動範囲は広がります。学校統合を行う際には、児童に安全上問題が生じないよう、通学区域、小中連携及び地域連携などの観点から課題を抽出し、十分協議検討し進めてまいります。   |
| 69 | 東香里小学校と春日小学校との統合に反対です。幼い娘を春日小学校まで通わすのが防犯的に心配です。スクールバスなど検討はあるのでしょうか。地域の方の見守りがあるとはいえ、この物騒になってきた世の中なので、あの距離を通わすのは親として心配です。東香里という地域も小学校がなくなることで、衰退するのでは無いでしょうか。新築区には、子どもたちが沢山居ます。この10年はやめていただきたいです。行政の問題もあるかと思いますが、もし御自分のお子さんやお孫さんがあの距離を通うのはどう思われますか。どうか、どうかよろしくお願い致します。   | 1  | 校区の大小に関わらず、これまでと同様に学校・家庭・地域で児童生徒を見守るための方策について検討・活動する必要があると考えます。また、統合に伴い、危険箇所などが認められる場合、必要な対策を検討してまいります。東香里小学校と春日小学校との統合につきましては、児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。   |
| 70 | 3年後、東香里小学校に入学させたくて引っ越してきた。統合で学校が無くなるのは困るし、反対だ。通学距離も春日小学校までは遠くなる。   | 1  |  |
| 71 | 子供・保護者の心のケアが必要である。子供達は学校が変わる事でストレスになる。保護者としても子供が安心・安全で通学出来るのか心配だ。通学距離も延びる。更に、犯罪等の事件にもまきこまれないか心配でならない。  | 19 | 学校統合により通学距離が延びる児童が増えることは想定していますが、公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(平成27年1月27日文部科学省)より、小学生の通学距離はおおむね4km以内とされており、通学可能な距離であると考えます。また、校区の大小に関わらず、これまでと同様に学校・家庭・地域で児童生徒を見守るための方策について検討する必要があると考えます。また、統合に伴い、危険箇所などが認められる場合、通学路に必要な対策を検討してまいります。又、環境の変化による、児童生徒の心のケアにも配慮するとともに、教職員の適切な人事配置に努めていきます。犯罪等の未然防止については各校とも教育委員会や警察等の関係諸機関と連携し、児童生徒の安全について日々取り組んでおります。各小学校においては、1年生を対象に防犯ブザーを配布しています。さらに校長のリーダーシップのもと、交通安全や防犯に対する教育にも取り組んでいます。 |
| 72 | 生徒が減少したからといって、どうして遠い学校に行かなければならないのか！？納得行きません。教育委員会の方々は他人の子ですから自分達の都合の良い様にまとめたいと思いますが、少ない人数も、まともに指導も出来ない学校が多いのに統合して多い人数になったら今の教師は見切れないんじゃないんですか？！何か問題が起きても枚方市の教育委員会の対応と来たら逃げるか、良いようにあしらうか無責任極まる対応しか出来ないのに統合、統合って何か良い事でも有るのでしょうか？枚方教育委員会の奴らは腐ってます。他人の子だからといって安全面など何も考えてない対応に腹立たしくてなりません。子供達の安全面を真剣に考えてるならマイクロバスでも出して下さい！ | 1  | 今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。そして、中長期的な視点にたつて、子どもたちの夢や元気につながるよう、新しい学校を築いていく観点で進めていきます。小規模校については、審議会の答申をもとに、学校統合を基本方策として課題解消を図ることとしておりますが、実施においては該当する学校の児童生徒や保護者、地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。  |
| 73 | 今度もバス通学にふれている。都市部で小学生に学区を拡大してまでバス通学をさせようとする感覚には違和感をおぼえます。  | 1  | 本市教育委員会では、直線距離2km以上かつ徒歩による通学に危険性が認められる場合、保護者に公共交通機関(バス)の費用の全額を補助する制度を設けていますが、学校統合においては、通学距離も考慮し、慎重に検討してまいります。  |

| NO | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|----|---|----|---|
| 74 | 「学校統合されるの？…そうになったら廊下ですれ違っても誰が誰かわからなくなるな」と子どもに言われた時、とても寂しくなった。統合される事によって長く長くなる登下校時間の安全はどのように確保して頂けるのか不安である。集団登校に車が突っ込み、幼い子供が連れ去られている。大人よりも弱い子どもたちが大人のように車や自転車を使うことなく、炎天下の中45分歩く子も出てくる。親として一番望む事は、統合によってうまれると言われているメリットではなく、子どもの安全と考える。 | 2  | 学校統合により大規模校とするものではなく、適正規模校とするものです。小規模校に比べ、児童数が増えることで、集団の相互作用が大きくなり、さまざまな価値にふれる機会が増え、児童により良い影響を与えることができると考えます。通学路の安全確保については教育委員会としても大きな課題と考えており、危険箇所などが認められる場合、必要な対策を検討していきます。山田小学校の統合につきましては、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。 |
| 75 | 東香里小学校は統合しないで欲しい。東香里の街が好きで東香里小学校が近いということで、家を購入した。春日小学校までの通学路は交通量の多さ、住宅街などの細い路地が多い長い道のりを娘に歩かせるのが心配である。   | 1  | 統合により、通学距離が伸びる児童も増えることは想定しています。保護者及び地域コミュニティ、学校、教育委員会等の代表者からなる「(仮称)統合協議会」を設置し、通学路などの統合に関する諸課題について協議・検討を行います。東香里小学校の統合につきましては、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。   |
| 76 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 3. 適正化の留意事項 (4)通学距離ですが、小学校でおおむね4kmとしているが、高低差は考慮されないのか。同距離でも急な坂道や 長い坂道がある場合、児童生徒の疲労度が増すと考えられる。また、大雨などでは大変危険である。   | 1  | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 3. 適正化の留意事項(4)国道などの地形地物及び通学時の安全性にも配慮するとしています。また、通学路の安全性については、統合の有無に関わらず、別途必要に応じて解消を図る必要があると考えます。また、学校統合により校区が広がった場合でも、統合前と同様に学校や家庭、地域の方々と連携しながら登下校における安全性の確保に努めてまいります。   |
| 77 | 留守家庭児童会に預ける親や、児童にとっては、学校と同レベルに、設備が整っているのか、統合により通学路が遠くなり、冬季の夕刻などの安全性の問題は解決できるのかなど重要な課題であると認識している。  | 1  | 留守家庭児童会室に入室を希望する全ての児童を受け入れられるよう関係課と調整していきます。留守家庭児童会室にあっても、学校と同様に安全性などの確保を図ってまいります。  |
| 78 | 東南海地震の来襲が間近に迫っている。小学校など公共施設は避難所として重要である。避難所のことはどのように考えているのか。素案のなかに書いてほしい。   | 1  | 学校は、避難所や地域コミュニティの活動拠点でもあるほか、地域住民等のスポーツ・文化活動に寄与する施設でもあると認識しています。学校の跡地活用にあたっては、学校が地域に果たしている役割を踏まえ、検討する必要があると考えています。ご意見を踏まえ、第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模 ②学校統合についてウ. 学校統合にあたっての留意事項の(e)に学校の跡地活用に関する文言を追加しました。                                      |
| 79 | 統廃合された場合、その跡地等に若い家族用マンション等が建ち、かえって大規模校になるおそれがないのかどうか、不明である。   | 1  |   |
| 80 | 答申の説明会で意見が多く出た、避難所の事が記載されていないのはなぜか。   | 1  |   |
| 81 | 小学校の統廃合は地域コミュニティ及び災害時の一次避難所の問題とも密接な関係がある。これらの問題は現在「白紙」の状態なのか。どのように決められていくのか。  | 1  |   |
| 82 | 閉校になり、避難所がなくなるのはお年寄りも困るし地域として不安である。統合廃止の検討を願う。  | 1  |   |
| 83 | 創立140年の山田小学校等、地域からプールを作ってもらったり、地域とかかわりが多い学校もたくさんある。   | 1  |   |

| NO | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方                 |
|----|--|----|---------------------------|
| 84 | 20年以上前から、枚方市の取り組みとして、小学校区を中心とした、コミュニティの強化を図り、市政に対する協力要請をコミュニティに依頼している現状の中で、小学校・児童・保護者の存在が大きくなっており、地域住民の融和に大きく貢献していると思う。また、様々な事業を地域で取り組んでいるが、子供に関する事業は、学校・保護者などが関わることで円滑な運営ができています。 | 1  |                           |
| 85 | 学校は文化、コミュニティの中心であり防災避難所でもある。   | 1  |                           |
| 86 | 足が不自由なため、近くの学校が避難場所と思っている。学校が無くなったら何処へ避難したらいいのか。それを一番に考えてほしい。  | 1  |                           |
| 87 | 地域の学校は避難場所としても利用されている。   | 1  |                           |
| 88 | 東香里小学校の周りには防災拠点も無いので、地域住民にとっては、ただの小学校ではない。   | 1  |                           |
| 89 | 大災害が予想されている今、年配の方が多地域でもあるので避難場所を確保しておく必要がある。   | 1  |                           |
| 90 | 統合する必要はないと思うし、統合するにしても、施設自体は地域活動の拠点として保存すべきであると思う。   | 1  |                           |
| 91 | 先の説明会でも地域のコミュニティや防災の拠点がこわれると危惧する声が沢山だされました。  | 1  | 13ページ NO.78にお示した考え方と同じです。 |
| 92 | 学校は地域の拠点なので地域作りには必要。長らくつちかかってきた住民組織を壊さないでほしい。  | 1  |                           |
| 93 | 学校の統廃合には、多額の税金が使われるため、跡地再開発計画がないまま統廃合を進めるとは考えにくく、跡地の再利用をどのように考えているのか、明確な回答を要望する。昨今、日本国内では、国有地の問題、市内では、関西外国語大学が敷地を拡大していくなど、不安な材料が多い。  | 1  |                           |
| 94 | 避難所の件はどうするつもりか。この地域は高齢者が多く、川越まで行けても開成まで歩けないという人もいます。何かあれば車は役に立たず、歩いて行くしかない。どうか子供と高齢者の立場に立って考え直してほしい。   | 1  |                           |
| 95 | 統合して学校が一つなくなるということは避難所が一つなくなるということなので、今後大きな地震災害が予測されているところで避難場所が減るのは住民として不安である。子供の数は減っても人口がすぐに減るわけではないので、学校を残しておくことで災害時に安全に避難できる場所が確保されると思う。                                       | 1  |                           |
| 96 | 災害時(地震、台風、火災)の唯一の避難場所無くする事は高齢者の心配の増える元となる。   | 1  |                           |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方                 |
|-----|---|----|---------------------------|
| 97  | 学校は地域の住民、コミュニティにとって大変重要なものである。昨今の大型災害などの避難場所としての活用が必要なこともあるのではないかと。枚方市なら大切な学校を残してゆくことも選択肢ではないだろうか。  | 1  | 13ページ NO.78にお示した考え方と同じです。 |
| 98  | 保護者等への説明のためには、学校の跡地活用について、地域の福祉につながるものを考えられたらいいと思う。   | 1  |                           |
| 99  | 何でもマンモス化する傾向に反対である。市政としては、予算の問題等、統合したほうが都合がいいのだろうが、地域住民にとっては、遠くの大きな施設にまとめられるのは暮らしにくい。ここで実際に生活を営む市民に寄り添って頂きたい。   | 1  |                           |
| 100 | 避難所のことがなにも書いてない。  | 1  |                           |
| 101 | 山田小学校の廃止(統合)には反対である。理由として、高齢者等の弱者の避難場所が遠くなる、災害時に交北まで行く人はだれもない、近くに中宮小・中があるから。  | 1  |                           |
| 102 | 伝統ある山田小学校がこの様な事態になっているとは本当にびっくりです。私の義理の妹、私の子供2人、孫1人とお世話になりました学校です。いろいろ事情はある事と存じますが、誠に残念で行末が気掛りでたまりません。又、この学校は避難場所にもなっております事も不安の一つです。家からはすぐ近くですので安心しております所です。この辺りは小さな災害の時でも、皆が走って身を守る所は一つもありません。どうか子供の為、私達高齢者の為、町民皆の思いだと、切実に胸が痛みます。  | 1  |                           |
| 103 | 行事のみ合同で開催する等で良いと思う。避難所にもなっている小学校を廃校にする必要は無い。  | 1  |                           |
| 104 | 少なくとも中宮北小学校の現場では、子供・保護者・教師が今の現状に何も問題や課題が無く活気があると説明会でも発言しているのに、それでもまだ問題があるとして特化・統合すると記載があるのはなぜですか？   | 1  |                           |
| 105 | 中宮北小校区の説明会では多くの反対意見や納得いかないという意見が出され、その後検討委員会を設置し、審議会答申等についての勉強会を開いているところです。第1回の勉強会でも、中宮北の保護者等は小規模校についてのデメリットは感じていないですし、教育委員会からの発言内容に共感するものはほとんどいなかったと思います。今後も数回の勉強会の開催が予定されており、統廃合について考えていこうとしているところですが、素案には高陵小と中宮北小の統廃合に取り組むとされており、説明会での意見が参考にされたとは思えないものとなっています。説明会では、基本方針を出す際は、学校名は出さず教育委員会の方針を示すものになるとの説明を繰り返されていたと思いますが、今回、高陵小と中宮北小の名前を出された理由を示してください。 | 1  |                           |
| 106 | 答申の中で、他の地域の統合について記載があったが、なぜ中宮北小と高陵小の統合のことが記載されていて、その他の統合の話は記載されていないのか疑問を感じる。似たような条件の地域は他にもあったはずだが、なぜここだけ記載されているのか不思議である。  | 1  |                           |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 107 | 具体的な学校名が高陵小と中宮北しか出ていませんでした。他の小中学校はどうなっているのでしょうか。その2校が合併した後はなし崩しに他の学校も統合合併の方針へと進んでいくのではないのでしょうか。とても不安です。   | 1  | 15ページ NO.105にお示した考え方と同じです。   |
| 108 | 答申において「できる限り早期」に実施することとされた高陵、中宮北小の方策に取組んでいく。この一文はどのような理由で示されたのか。答申に納得できないし、教育委員会が「誤りがある」と認めた答申に沿った方策に取り組むのはおかしいと考える。まず、十分に審議されていない答申を白紙撤回にするべきだ。  | 1  |  |
| 109 | 中宮北小学校と高陵小学校の統合一本に進めるという、枚方市学校規模適正化基本方針【改訂版】(素案)について、到底賛成できない。ほとんどの地域で激しい反対意見にあったため、中宮北を集中攻撃して実績を上げたいだけなのではないか。   | 4  |  |
| 110 | 「2. 適正化の実施 (1)学校規模 (2)学校統合について イ. 学校統合の取り組み」の記述において、「…答申において「できる限り早期」に…」とあるが、教育委員会としての学校統合の進め方の考え方を示すべきではないか。教育委員会として、なぜ高陵小と中宮北小の統合を急ぐのか、あるいは、その他の統合校の検討は優先順位を下げるのか、その考え方の根拠を明確に示すべきではないか。  | 1  |  |
| 111 | 枚方市コミュニティー協議会がH28年6月度に調査している構成人員調表では、0歳～5歳人口中宮北 266名、高陵 184名、明倫 263名、山田 188名、山田東 224名となっている。なぜ、中宮北小学校より人数の少ない山田、山田東、明倫が5年間の児童生徒数推移を注視する事になったのか。「山田、山田東、明倫小」と「中宮北小」の対応の差は何なのか明確にご教示いただきたい。上記にも書きましたがどうして266名の中宮北が「できるだけ早期に」の対象校になったのか。 | 1  | 中宮北小学校と高陵小学校の統合の実施時期については、両校とも既に小規模校となっていることから、できる限り早期とする必要があります。次に、答申において早期とされていました、山田小学校、山田東小学校、山田中学校の統合方策については、小中一貫校施設一体型の方策が示されていましたが、小中学校の施設一体型に伴う課題の検証を行う必要があることから、基本方針(素案)では、今後の児童数を注視するとともに個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示していくとしました。 |
| 112 | 統廃合する対象学校がどのような方向に進めるのかも明確ではない。例として、校区割。これは、全部の学校で適応ですか？それとも、一部ってどの学校ですか？誤解を招く書き方はよくないと思います。  | 1  | 中宮北小学校の統合方策の検討は、隣接する高陵小学校、殿一小学校、明倫小学校と3つの統合方策についてすべて検証しています。その中で、中宮北小学校は高陵小学校と統合するのが最も良いと判断されています。また、高陵小学校も同様隣接する中宮北小学校、殿一小学校、明倫小学校との統合方策を検討し、中宮北小学校との統合が最も良いと判断されたものです。なお、統合の実施時期については、双方の学校がすでに小規模校となっていることから、できる限り早期となったものです。             |
| 113 | 川越と開成小を統合し、一部地域を春日小に編入するのであれば、東香里小を統合せず、校区を調整する方向で、児童数を調整し統廃合を撤回してほしいと切に願います。   | 1  | 審議会の答申では、川越小学校と開成小学校を統合した場合、茄子作東町の通学距離が約2.1kmとなること。又、春日小学校区を横切って通学するという不自然な通学形態となることから、一部地域を春日小学校に編入することも併せて検討することとされました。  |
| 114 | 基本方針【改定版】(素案)を見ると、小規模校とされる小学校については、将来にわたって児童数が減少していくことにより、統廃合等の何らかの措置が必要になってきている状況は否めないと感じる。当基本方針についていえば、長い目でみると、高陵小と中宮北小とが統合しても、その後において再び小規模校の問題が生じてくるように思う。したがって、より先を見据えた効率的かつ経済的な統合及び校区割りをご検討頂きたいと思う。                              | 1  | 将来推計によると統合校が適正な学校範囲を下回るのは平成55年以降になると予測しています。なお、少子化の進行により小規模校が増えていく現状では、通学区域の変更による方策では抜本的な解消方策とならないことから、中長期的な視点に立ち、学校統合を基本方策としました。  |
| 115 | 少人数学級が問題として、仮に近いうちに高陵、中宮北を統合したとしても、中長期的な人口推移をみると、近隣の明倫、殿一も6クラスとなる。実施するにしても4校を含めた校区再編などの検討も必要なのではないでしょうか。  | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 116 | 小規模校について、校区の「まち」作りは人々の感性でまちを作るソフト面で地域のまち作りをしているが、有識者は机上の理論で「街」を作っている。いわゆるハード面。これでは校区としての「まち」作りは出来ない。教育委員会はもっと小規模校の実態を現実に見てほしい。例えば人口・世帯数・高齢者・子供数を比較する方法を考えた「まち」作りを構築すべきだ。中長期的には近隣の殿一・中北・明倫は6クラスとなると予想されている。抜本的な統廃合問題は、この状態になってから本格的な小学校の配置を実行する事が合理的と思われる。漸次的に改装、取り壊し工事を繰り返していくより、効率的と思われる。 | 1  | 16ページ NO.114にお示した考え方と同じです。  |
| 117 | 基本方針では、中長期的には、近隣の、高陵小、中北小、明倫小は6クラスになると予想している(資料2)。この間、漸次的に改装、取り壊し工事を繰り返していくことは無駄な税金を使うだけでなく、効率的とは思えない。このような状態になることが明確になってから(資料によれば、10年から15年後と思われる)本格的に検討し、他の計画の進捗状況と合わせ、小学校の再配置を実行することが合理的と思われる。抜本的な統廃合を含む適正化は、近隣小学校すべてが6クラス(小規模校)になることがはっきりしてから行うことを提案したい。                                | 1  |   |
| 118 | 中宮北は教室数が足りないというが、統合してもクラス数は増えないので教室数など関係ないのではないか。どのみち平成35年には統合した学校も適正規模を下回り、殿山第一との統合話が出てくる。高陵を建て替え(または改修)し、その十数年後にはまた統合と、住民をどこまで振り回せば気が済むのか。   | 4  | 中宮北小学校と高陵小学校を統合しますと、クラス数が増えます。高陵小学校に統合校を設置した場合、保有教室に余裕があり増築の必要がないのに対し、中宮北小学校に統合校を設置した場合、保有教室が19教室しかなく、5教室程度の増築等が必要になります。また、基本方針(素案)においては、適正な学校規模の範囲を小学校は12学級以上24学級以下としており、将来推計によると統合校が適正な学校範囲を下回るのは平成55年度以降と予測しています。  |
| 119 | 枚方市の人口推計調査が正しければ、またすぐに小規模校になる可能性があり、この点についてどの様に考えているのか。  | 1  | 将来推計によりますと、統合校が適正な学校範囲を下回るのは平成55年度以降と予測しています。本市では、人口減少への対応等を図るため、平成28年3月に第5次枚方市総合計画を策定しました。また、平成31年度までの期間で集中的に実施する施策をまとめた「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これらの計画等を基に、本市の出生率の向上や、市民の定住・市外からの転入の促進につながるよう、さらなるまちの魅力向上に向けた様々な取り組みを進めていきます。また、適正な学校配置を進めながら、同時に若い世代が本市に移り住み、住み続けていただけるような子育て支援の充実や教育環境の整備・向上を図ってまいります。 |
| 120 | 小学校が廃校になった地域からは、子どもは減少していくのではと考える。枚方市駅、市民病院から近い、中北校区地域は、子育て世代にとって魅力的な地域だと思うが、枚方市はどの様に考えているのか。  | 1  |   |
| 121 | 小学校が廃校になれば、その地域から子どもが減少すると思われる。(=枚方市から子どもが減少する)今までの統廃合での小学生の人口流出データ等はないのか？枚方市の子ども人口を増やしたいという方針に反すると思う。   | 1  |   |
| 122 | 山田小を統合する場合、都丘地区は中宮小・中宮中にすべきである。普通に考えた場合、近くに小学・中学があるのに、なぜ危険をおかして遠方の交北小へ行かなければならないのか。学区を変更しないのは、行政の都合で変更しないのであって地区を無視したものである。  | 1  | 山田小学校区の適正化につきましては今回の基本方針において、児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示すとしてしました。なお、現在その内容と方法は、具体的に決まっておりますが、山田小学校の適正化方策に対する貴重なご意見として承ります。   |
| 123 | 小中一貫校についても本当にメリットがあるのか根拠があいまい。   | 1  | 審議会より「学校統合により、小中一貫校(施設一体型)を設置する。統合の実施時期については、早期とする。」との答申をいただきましたが、教育委員会として検討した結果、小中一貫校(施設一体型)の設置については、今後も先進校の視察や、調査、研究を継続していくことが必要と判断させていただきました。基本方針(素案)においては、児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途に改めて示していくとしてしました。   |
| 124 | 小中一貫校についての明確な記載がなくなった理由を明確にするべきだと思う。都合が悪い事は記載しないのか。  | 1  |   |
| 125 | 山田・山田東・交北の小中一貫を早期にとされていた答申を5年は何もしないとした理由はなんですか？又、基本方針素案の中に答申を踏まえてと記載が有りますが答申とは違う内容になっていませんか？   | 1  |   |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 126 | 小中一貫校について、「中1ギャップ」ばかりが注視されているように思うが、小学校の間おとなしくいじめを受けていたような子が、中学校に行ったら心新たに頑張っていこうというようなこともあると思う。このような子の気持ちはどうなるのか。  | 1  | 小中一貫校(施設一体型)が、子どもの新たな気持ちを阻害することはないと考えます。   |
| 127 | 留守家庭児童会や学童保育も大規模になる。   | 3  | 留守家庭児童会室に入室を希望する全ての児童を受け入れられるよう関係課と調整していきます。   |
| 128 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針2. 適正化の実施(1)学校規模②学校統合について ア.学校統合について検討の対象とする学校の要件 (a)(b)では共に「児童数の増加はない」としている。しかし 第5次枚方市総合計画では人口流入を促進する計画が出されており、矛盾しているのではないか。  | 2  | 本市では、人口減少への対応等を図るため、平成28年3月に第5次枚方市総合計画と、平成31年度までの期間で集中的に実施する施策をまとめた「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これらの計画等を基に、本市の出生率の向上や、市民の定住・市外からの転入の促進につながるよう、さらなるまちの魅力向上に向けた様々な取り組みを進めてまいります。また、適正な学校配置を進めながら、同時に若い世代が本市に移り住み、住み続けていただけるような子育て支援の充実や教育環境の整備・向上を図ってまいります。なお、ご指摘の(a)(b)につきましては、あくまで検討対象校の「要件」であり、適正化にあたっては、児童生徒数の推移や住宅開発の動向などを十分に見極めていく必要があると考えています。 |
| 129 | 「(2)学校統合について」で、「平成55年度」までの児童推移をみていますが、いまから、26年先までの児童推移はわからないのでは？ 普通は、自分の子どもが小学校に上がる段階で、家の購入も考えて引越す親が多いと考えます。よって児童推移は、26年先まで出すことは、拙速だと考えます。また、市の方針である人口増を進めるのであれば、26年先まで児童数が減ることを想定するのは、市の方針と矛盾すると考えます。   | 1  | 学校統合を行うにあたり、将来推計は非常に重要なものとなります。平成55年度までの児童推移については、枚方市人口推計調査報告書を基に算出したものです。人口減少の推移をお示しをして、市民の皆様と情報を共有することが大切であるということから、お示ししてきたものです。また、市の方針により、人口増のさらなる施策に取り組んでまいります。人口減少は全国的なもので、児童生徒数の減少はピーク時に比べ半数以下となっています。また、小規模校となる校区についてはピーク時に比べ10分の1となる校区もあり、教育環境の改善が喫緊の課題であると認識しています。そのため、市の施策により人口が増加する要因と教育環境の改善を図るための学校統合のバランスを図りながら進めてまいります。             |
| 130 | 小規模で一人一人の子どもをしっかり見てアットホームな学校づくりは将来子どもたちが枚方に住み続けることにつながるはず！！数だけで決めるのならまず、30人学級の実現からしてもらいたい！！そうすれば必ず学力アップになるはず！！   | 1  | 本市教育委員会においては独自の少人数学級編成を小学校4年生まで導入しています。更に、支援学級在籍児童については、在籍数をダブルでカウントする本市独自の学級編成を行っています。また、学力向上については各中学校区で校内研究等、授業改善に向けた取り組み等を校長のリーダーシップのもと、学力向上主担者を中心に取り組んでいます。また、きめ細かな指導と学習の定着を図るため、算数・数学や英語など、クラスを分割して、少人数での授業を行っています。なお、国に対して更なる少人数学級の推進に関する要望を行ってまいります。  |
| 131 | 大阪府全体をみても、枚方市の場合でも35人学級になって(私は45人学級を12年間経験していました。)子供が落ちついてきた。学力向上した。子供の話を傾けることが出来るなど、現場の先生の声が大阪府からも届いている。(「少人数学級編成に係る研究」大阪府教育委員会H24.8)少人数学級は市長様自らの「選挙公約」でもあり、これを途中で変更することなく実施して下されることを望む。学校統廃合ではなく少人数学級の拡充を求める。子供が生き生きと育っていく方向を(子供は宝です！！)行政をあずかる方々は枚方市が13年も連続黒字の中でしっかり考えていただきたい。(もっと言わせていただければ1年～3年生では30人学級が望ましいと思います) | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 132 | 自治会の活動も活発だし住んでいてとてもいい地域だと思う。こんないい地域の過疎化を進めるよりも人口を増やすために出来ることはないのか。   | 2  | 本市では、人口減少への対応等を図るため、平成28年3月に第5次枚方市総合計画と、平成31年度までの期間で集中的に実施する施策をまとめた「枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。これらの計画等を基に、本市の出生率の向上や、市民の定住・市外からの転入の促進につながるよう、さらなるまちの魅力向上に向けた様々な取り組みを進めてまいります。また、適正な学校配置を進めながら、同時に若い世代が本市に移り住み、住み続けていただけるような子育て支援の充実や教育環境の整備・向上を図ってまいります。 |
| 133 | 基本方針については統合ありきの方針になっている。そもそも子ども達にとって統廃合でいいのか。市の公約にある出生率の向上や市民の定住、市外からの転入促進は一体どうなったのか。学校を減らすことは益々地域に転入を減らすことになり、過疎化が進行し高齢者ばかりになる。今や認知症高齢者も増す中、専門職だけでなく地域で見守るにも高齢者地域老々介護になるのではと思う。子どもの為地域の為には、学校統廃合はメリットよりデメリットの方が大きいと考える。子どもの人数が少ないからと統廃合で片付けず、その地域の活性化、魅力ある地域にし、誰もが住みやすい地域にしていきたい。…そのためには学校は必要と思います。 | 6  |  |
| 134 | 町や地域に学校があってこそ活気ができるのではないのか。  | 1  |  |
| 135 | 統廃合をしてしまうと、伏見市長が公約にあげている35人以下の学級が実現できなくなる。市長さんの公約を実現するためにも、統廃合をする計画をすぐに取り消してほしい。   | 5  | 市長公約による少人数学級編制を実施した場合において、若干の学級数は増えますが、適正規模の範囲を維持できるほどは増加はしません。なお、今後、新たに学級編制基準が変更された場合には、必要に応じて適切に対応する必要があると考えます。  |
| 136 | 低学年30人学級、高学年35人学級を実現することで適正化できるのでは。また、通学区域を見直すことでも適正化されると思う。   | 1  | 市長公約による少人数学級編制を実施した場合において、若干の学級数は増えますが、適正規模の範囲を維持できるほどは増加はしません。なお、今後、新たに学級編制基準が変更された場合には、必要に応じて適切に対応する必要があると考えます。通学区域の変更による、小規模校の解消方策も考えられますが、小規模校が増えていく現状では、通学区域の変更による方策では、抜本的な解消方策とならないことから、中長期的な視点に立ち、学校統合を基本としました。                                   |
| 137 | 市長の公約通り少人数学級を実現してほしい。そうすればクラス数も変わってくるのでは。  | 13 |  |
| 138 | 少人数制学級への考え方は消えてしまうのか。  | 1  | 1年～4年を支援学級に在籍する児童を含み、1クラス35人学級とする、少人数学級の考え方は変わりません。  |
| 139 | 市行政における、「総合政策部」と「教育委員会」との間に、政策上での矛盾が存在する。総合政策部においては、その方向性にあっては、少なくとも「人口増加策」を提案している。これに対して「教育委員会」にあっては、「枚方市の現状を是認した上で、小学校・中学校の統合」を提案に及んでいることから、同一の枚方市行政内部であって、両組織の政策上の課題として大きな矛盾が存在している、と指摘しておかざるを得ない。それぞれの施策の根幹となる各々の答申時期もまったく同一である。「枚方市立小・中学校の配置等の適正化について」の答申時期…昨年3月 「枚方市町・ひと・仕事創生総合戦略」の答申時期…昨年3月   | 1  | 枚方市まち・ひと・しごと創生総合戦略におきましても、基本目標2の3の(6)に「安全で快適に学習できる環境を確保するため、老朽化した学校施設の更新や改修、学校規模の適正化を図るなど、教育環境の向上を図ります。」とあり、矛盾はありません。また、小規模校の解消は、子どもの教育環境の改善が目的です。本市教育委員会といたしましては、更なる学校教育の充実を図るとともに、学校施設・設備など教育環境の充実に取り組んでまいります。   |
| 140 | 枚方市の合計特殊出生率をいかに上げるか、青年層世代を如何にして枚方市に住んでいただけるような政策・施策をどのように講じていくことができるか。「子育てするなら枚方で」をどのようにして実現化するのか。   | 1  |  |
| 141 | 放課後児童課の職員と話したが、統合に関する情報は全く下りきていない。教育委員会が決めたら、それに沿って動くと言われ、受動的である。横の連携ができていないのではないのか。学校の統合の話を進めるのであれば、必然的に統合となる留守家庭児童会の問題についても、管轄や所管を超えて同列で話をするべきである。   | 1  | 学校規模等の適正化については、本市における重要な取り組み課題であり、関係部局との連携・調整も行っています。  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 142 | 現状のコミュニティ(地域)と小学校の関係を考えると教育委員会だけの対応でいいのか。また、現状の素案の付焼刃的な学校統合で、将来も含め枚方市の教育行政がうまくいくのか疑問がある。この問題は、枚方市の行政組織を縦断し、市長・市議会も巻き込み、将来展望を見て進めるべき、大きな課題だと感じる。  | 1  | 19ページ NO.141にお示した考え方と同じです。   |
| 143 | 学校の統廃合は、「学校規模の適正化」の課題である教育委員会の業務に留まらず、高齢社会室、市民安全部、危機管理室など市政そのものだ。  | 1  |  |
| 144 | 市内小中学校を巡る生徒数減少の実情について、市教委行政側があまりにも安直過ぎる対応に終始してきたのではなかったか。確かに少子高齢化は全国的な課題、傾向であることには相違ないにしても「枚方の生徒数減少」の背景には、過去の枚方市行政の無策な対応のあり方に責任の大半が存すると見ており、行政の無作為を棚にあげて統廃合計画を打ち出す以前に、市行政全体として考え直しておかなければならないことがあったはずである。  | 1  | 人口が急増し、本市が学校建設に取り組んできた時代に比べ現在、少子高齢化を迎え、児童生徒数は大きく減少しています。昨今の少子化の影響などにより、市内の全ての学校で、児童生徒が減少しているのではなく、新たな大規模住宅地の開発などにより、一方で児童が増加し大規模校や過密校となり、他方で小規模校が発生するなど、アンバランスな状況が見受けられます。この状況に対応するため教育委員会では、大規模校、過密校に対し教員の加配や少人数教室校舎の増築、部活動支援のための体育施設の確保など優先して行ってきました。一方、小規模校は、交友関係が限定されやすく多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちで、社会性や協調性などの育成においては大きな妨げとなるデメリットがあることから、教育環境の改善のため、今回の基本方針において小規模校の解消を優先的に図るものです。今後においても大規模校や過密校、そして小規模校など、引き続き、その対応を行ってまいります。 |
| 145 | 小学校が統合するとしても、例えば、留守家庭児童会及びコミュニティ協議会等の統合、住民の避難所等の問題が多く生じてくるのは言うまでもなく、小学校の統合のみが先行しても、地域住民としてはそれら諸問題を含めた全体のビジョンを示して頂かないと足踏みせざるを得ない状況かと思う。   | 1  | 学校は、避難所や地域コミュニティの活動拠点でもあるほか、地域住民等のスポーツ・文化活動に寄与する施設でもあると認識しています。学校統合にあたっては、学校が地域に果たしている役割を踏まえ、地域の方々のご意見をお聞きし、検討する必要があると考えています。また、留守家庭児童会室に入室を希望する全ての児童を受け入れられるよう関係課と調整していきます。   |
| 146 | 中宮北小学校と高陵小学校との統合案については、答申では高陵小学校に統合校を置く案がいいと書いているが、中宮北小学校に統合校を置く案の方がよい。中宮北小学校をなくして高陵小学校に統合校を作る案には反対だ。高陵小学校は崖に建っていて非常に危険である。  | 1  | 現在、高陵小学校が全学年単学級で、中宮北小学校が2学年で単学級となり、両校とも小規模校のため、できる限り早期に学校統合を行う必要があります。審議会では学校規模、施設規模、通学区域、小中連携、地域連携の5つの視点から、高陵小学校と中宮北小学校との統合が最善と答申をいただきました。なお、高陵小学校の敷地は、法面の対策工事を完了しており、「土砂災害危険箇所」に指定されていません。敷地の安全性につきましては、問題はないと考えております。   |
| 147 | もし高陵小学校に統合校ができたときに、災害時の避難場所が高陵小学校になる。その避難場所は、崖のすぐそばに立っていて、さらには防災マップにも『土砂災害危険地域』に隣接している場所が、災害時の避難場所に適しているとは到底考えられない。危険を多く含んでいる学校に「教室の数があるから」「改修だけで済むから」という理由で、子どもたちの安全はほとんど考えられていない。「学校」というのは、安全でなければならないのに、そこは全く考えられていない。  | 1  | 学校が避難所や地域コミュニティの活動拠点であること等を踏まえ、地域の方々のご意見もお聞きしながら、跡地の活用方策について検討する必要があると考えます。高陵小学校の敷地は、法面の対策工事を完了しており、「土砂災害危険箇所」に指定されていません。敷地の安全性につきましては、問題はないと考えております。  |
| 148 | 統合校をどちらかに置くか考えると、高陵小学校はないと考える。子どもを学校に通わず保護者としては、安全な学校でなければならぬと考える。立地条件で考えると、高陵小学校の立地条件は、崖の際に立っており、枚方市防災マップに記載されているように土砂災害危険地域に隣接して非常に危険である。隣は土砂災害危険地域ではないが、フェンスを越えたむこうは崖である。「通学路の安全性の確保」という点で考えても、そのような場所に立地している学校に登校することや、そのような立地条件の中で子どもたちは日々学習活動に取り組むと考えると果たして「安全」と言い切れるだろうか。少なくとも中宮北小学校の周りにはそのような崖は隣接していない。どちらがより安全かで考えると、誰がどう考えても四方に崖がない中宮北小学校ではないか。災害が起こってから、事故が起こってからでは遅い、未然に防ぐために考えた選択である。 | 1  | 高陵小学校の法面は、対策工事を完了しており「土砂災害危険箇所」に指定されていません。万一、問題があれば、現在も児童が通っている学校ですので、早急な改修を行ないません。両校の統合において、特に重用なのは、毎日通学する通学距離と通学路の安全にあると考えております。統合した場合、校区の中央に近い学校を選定することが通学距離が短く、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 149 | <p>そもそも高陵小学校の立地区画が、崖の上というのもあり危険だと思います。教育委員会からの説明では防災マップ上、危険区域ではないと言いつられていましたが、万一、災害時に崩落などしようものなら、議事録も残っており、市民からの声を無視して進めていった責任問題になります。そもそも高陵のあの場所に小学校を存置するのが良いのか、防災の観点からも、もう一度見直すべきかと思ひます。</p>  | 1  | <p>敷地の安全性については、問題はありません。法面については「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。また、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておひません。さらに大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水について、適切な排水ができるよう整備されていますので、問題はありません。</p> |
| 150 | <p>崖そばにある児童会の建物にしてもそうだが、安全安全と言ひ張っているが、地震等の災害は人間の想定を超えるものが起きる可能性がある。こんな場所に子供を入れることはできない。安全と軽々しく言っているが、いじめなど人の生死にかかわる問題が起きても誰も責任を取らないのが学校関係者である。この崖のため誰かがケガ、死亡した場合に自分も責任をとって死にますという気持ちでこの回答をしているのか。そもそもこの高陵の学童の位置はいますぐにでも変更すべきである。</p>                                  | 1  |   |
| 151 | <p>南海トラフ地震が近い将来に確実にやってくる。その時の避難場所(公的施設)は多いほど安心に繋がるので、中北・高陵、共にあればいいと思ひ。説明会では高陵に統合となっている。ただ、敷地面積はほぼ同じだが、中北は正方形、高陵は長方形でしかも法面がある。法面に沿って吹き上げる風はかなり強い。避難場所としての最適地は明らかに中北ではないだろうか。また、児童数も中北がはるかに多いのになぜ高陵小への統合なのか理解できない。市の共有財産を民間に売却しやすい、業者の有効活用しやすい宅地を選んだのかと住民は疑問に思っている。</p> | 1  | <p>学校統合後の跡地の利活用につきましては、避難所のあり方も含めて、保護者や地域の方々のご意見もお聴きしながら、市としての方策を検討する必要があるものと考えておひます。また、説明会における統合方策につきましては、学校規模、施設規模、通学区域、小中連携、地域連携の5つの視点を総合的に検討して、答申として出されたものです。さらに法面に関しては安全であり大阪府により、「災害危険箇所」に指定されておひません。なお、民間等へ売却を目的として、適正化を進めているわけではありませひ。</p>        |
| 152 | <p>地域コミュニティーの区割りが小学校区である以上は、教育の観点からのみではなく地域活動の観点からも含めて判断すべきだと思ひます。また、仮にコミュニティーを統合するにしても、中宮北と高陵でどちらが機能しているかを項目別に見極める必要があると思ひます。機能している組織が、機能していない組織に対して手を差しのべるのが道理です。高陵はPTA、コミュニティー活動ともに少子、高齢化により限界がきておひ、中宮北校区をベースに統合するのが自然なのではないでしょうか。</p>                             | 1  | <p>校区コミュニティー協議会につきましては、小学校区が基本となりますので、学校が統合された場合には新たな小学校区に基づくものと考えておひます。校区コミュニティーの統合などについては、市の担当部署や当該校区コミュニティー協議会と協議の上、進める必要があると考えておひます。</p>  |
| 153 | <p>第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模①学校規模については「必要に応じ通学区域の変更も視野に入れた検討を行う」としているが、②学校統合についてイ.学校統合の取り組み(a)で通学区域の変更も視野に入れず、高陵小学校と中宮北小学校は学校統合について「できる限り早期」に実施するとなっている。なぜ、この2校に関しては、通学区域の変更も視野に入れていないのか根拠がわからない。</p>  | 2  | <p>通学区域の変更による、小規模校の解消方策も考えられますが、小規模校が増えていく現状、また、小規模校同士の通学区域の変更による方策では、抜本的な解消方策とならないことから、中長期的な視点に立ち、学校統合を基本としました。</p>  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 154 | 「高陵小と中宮北小の方策」に取りくむということは、高陵小の敷地に統合することが前提なのか。   | 2  | 現在の児童数の多少により、統合校を選定するのではなく、枚方市学校規模等適正化審議会より、学校規模、施設規模、通学規模、小中連携、地域連携の5つの視点から総合的に検討した結果、高陵小学校敷地に統合校を設置すると提言を受けたことによるものです。統合校設置場所の選定において、特に重要であるのは、毎日、通学する通学距離と通学路の安全であると考えています。統合した場合、校区の中央により近い学校に選定することにより、通学距離が短くなり、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。又、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置するほうが少なくなります。 |
| 155 | 素案には、統合方策として「統合校を高陵小とする」との文面がなくなったが、仮に統合する場合には、答申の内容は変更となるのか。   | 1  |  |
| 156 | 統合するとしても子供の数の多い学校に統合校を作るのが自然だと思う。   | 1  |  |
| 157 | 中宮北小学校のほうが児童数が多い。多い方の児童が犠牲を払うことに対してどう考えているのか。   | 1  |  |
| 158 | 沢山の方が高陵よりも中宮北にと意見しているのに返答が十分でない。逆の意見はひとつも出ていない。誰がみても中北の立地条件の方がよい。   | 1  |  |
| 159 | 世間一般的な統合の流れとして、子どもの数がかなり減ってしまったため、近くの自分たちの学校より子どもの数が多い学校に統合することが普通です。それは、その地域には、現実的に子どもがたくさんいない、また、今後増加の見込みもない、その中で子どもの数がより多い学校のほうに統合されるのが、あってしかるべきだと考える。どちらとも小規模校であるとはいえ、より子どもが多いのは中宮北小学校であるし、高陵小学校の方が子どもの数は少ない。統合校を中宮北小学校に置くのが、誰がどう見ても当たり前であると考えている。数が多い学校がなくなり、少ない方に統合する学校など、全国的に例を見ないと思う。 | 1  |  |
| 160 | 中宮北小学校と高陵小学校との統合の案について、検証評価に偏った評価がされていると思う。中宮北小学校に統合校を置く場合には、特に有効な点はなく課題だけがあり、高陵小学校に統合校を置く場合には、課題点は全くなく、有効な点だけがあるというおかしな評価になっているので、提言については反対である。  | 1  |  |
| 161 | 中宮北小学校と高陵小学校では児童数が中宮北小学校の方が多い。ましてや中宮北小学校は一時的に小規模校ではなくなる。高陵はどうか。市外の人間と話しても誰もおかしな話だと感じている。  | 1  |  |
| 162 | 総合的に検討したなどと、回答になっていない結論ありきの方針をオブラートに包むための、市民を馬鹿にした回答をしているが、民主主義の原則にのっとり、主役である子供の数で決定すべきである。中宮北でダメな理由を明確に列挙するなど、納得のいく回答を行うべきである。   | 1  |  |
| 163 | 高陵小学校と中宮北小学校が統合した場合の「統合校」はどちらにするのかは、これから決めると考えて良いのか。答申の5つの視点は、全く納得出来ないし、なぜ5つの視点にこだわるのか理解が出来ない。人数の多い小学校が廃校になり、少ない小学校に統合されることに納得が出来ない。答申で高陵小に統合校を設置するとした理由を5つの視点以外でご教示いただきたい。   | 1  |  |
| 164 | 校舎が中宮北小学校より10年以上も古く老朽化していることなど考えると、いくら教室が足りていたとしても、「教室が古く危険」「トイレが汚い、和式しかない」、体育館が非常に狭いなど諸々の面を考えると中宮北小学校に、統合校を置く案の方が、これから10年、20年先のことを考えた選択になると思う。   | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 165 | 建物のことは中北で何とかできるはず。どちらにしても建物年数は古く建て替えるの必要はいずれでてくると思う。ここを第一に出来るだけ早くというのも納得できず、建物が建ってからでもおかしくないはず。  | 1  | 現在、高陵小学校が全学年単学級で、中宮北小学校が2学年で単学級となり、両校とも小規模校のため、できる限り早期に学校統合を行う必要があります。審議会では学校規模、施設規模、通学区域、小中連携、地域連携の5つの視点から、高陵小学校と中宮北小学校との統合が最善と答申をいただきました。   |
| 166 | 教室数の課題で「中宮北小学校は19教室しかなく…」とあるが、高陵小学校には一体保有教室は何教室あるのか。答申には「保有教室に余裕があり…」とあるだけで具体的な数字が書かれておらず比較対象にならない。また、「…増築の必要がない。」とあるが高陵小学校は中宮北小学校より10年以上も古く、果たしてそれだけの数が入るときには改修・改築しなくても使えるのか疑問が残る。使っていない教室は、物置として使っていたり、クーラー、扇風機、その他の教育活動に必要な環境が全く整っていない教室がほとんどであるとも聞く。改修・改築を行うのであれば、費用がかかるため、10年以上新しい中宮北学校に統合校を置く方が、「良好な学習環境の確保」ができると思う。 | 1  | 高陵小学校には保有教室は26教室あります。統合する場合、両校とも既に建築後35年以上経過しているため、今後大規模な改修をする必要があります。そのため、統合する場合、一時的に統合するまでの間、どちらかの校区で改修を行う間過す必要があります。ご指摘のとおり、高陵小学校の空き教室は改修が必要です。しかし、仮に中宮北小学校を統合校とする場合も、空き教室の改修は必要で、さらに中宮北小学校に教室棟の増築が必要となります。高陵小学校を統合校として統合する場合は、中宮北小学校に一時的に仮設校舎を建てる必要がありますが、整備費用面から考慮しても、高陵小学校に統合校を設置する方が有利であると考えています。  |
| 167 | 建築年数が経過しより改修が必要と考えられる学校への統合は不可解、同じ改修をするのであればより新しい学校を選択するのが普通ではないか。経年劣化した建築物は、その改修にはより多くの予算が必要になるのではないか。  | 1  | 40年以上経過した校舎の改修は、建物をいったん構造躯体のみの状態にした上で、耐久性向上のため改修を行い、設備を一新する方法で改修するため、建築年数の差で費用が大きく変わることはありません。  |
| 168 | 中宮北小学校は教室数が足りないから高陵小学校ということだが、統合したところでクラス数が増えない(クラスの人数が増えるだけ)のであれば中宮北小学校で十分はず。   | 1  | 統合することでクラス数は増えます。また、少人数教室や更衣室、相談室、PTA室なども必要となります。   |
| 169 | 子供たちが安心し・安全な施設での学習が保証され、地域の防災拠点の核となるべき学校の立地がより安全な場所なのか見直しが必要と感じている。土砂災害危険区域とまではならないものの、急傾斜地に隣接しており本当に安全な場所であるのか、学校の沿革・歴史・名前を残すのか、子供たちや地域の防災拠点としての安全を優先するのかが問われることになる。再検討され、中宮北小学校への統合をされるよう希望します。  | 1  | 敷地の安全性については、問題はありません。法面については「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。また、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておられません。さらに大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水について、適切な排水ができるよう整備されていますので問題はありません。統合校設置場所の選定において特に重要であるのは、毎日通学する通学距離と通学路の安全であると考えています。統合した場合、校区の中央により近い学校に選定することにより、通学距離が短くなり、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。また、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置する方が少なくなります。なお、学校の沿革・歴史・名前などにつきましては、各校の貴重な財産であり、今後、(仮称)統合協議会において検討する課題であると考えています。 |
| 170 | そもそも、統合ありきとなっているが、校区の見直しを検討しないのはなぜか？特に高陵小学校校区は広範囲で、その子どもたちの救済のために、中宮北を廃止して高陵に統合との判断であるが、現在、著しく少学級である高陵の校区を見直した上で、存続校をどちらにするか判断すべきではないだろうか。倍以上の子どもを移す判断をするのは、審議会であれば、まだ机上の議論なので仕方なく思うが、行政上の判断と同様となると、到底理解できないし、現体制での市政運営を支持することができない。   | 1  | 現在の児童数で検討したわけではなく、学校規模、施設規模、通学区域、小中連携、地域連携など5つの視点で総合的に判断したものです。統合校設置場所の選定において特に重要であるのは、毎日通学する通学距離と通学路の安全であると考えています。統合した場合、校区の中央により近い学校に選定することにより、通学距離が短くなり、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。また、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置する方が少なくなります。   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 171 | 中宮北小学校をなくして高陵小学校に統合校を作る案には反対です。今、一番困っているのはすべての学年において単学級で在籍人数が20人程度の高陵小学校であり、その学校をどうするのか、中宮北小学校に統合校を設置して統合するのか、校区割りを坂下、坂上にわけてそれぞれ隣接する小学校に組み込んで統合していくのか、などという話になっていないこと事態がおかしい。まずは、高陵小学校をどうするのかという話をしなければならないと考える。  | 1  | 中宮北小学校も現在2学年で単学級となっています。単学級になると、6年間同じ人間関係の中で過ごすため、新しい人間関係や友人を作る機会が減るなど、子どもの成長において課題があると考えています。統合の検討にあたっては、学校と大変結びつきが深い校区コミュニティの分断を避けるため「分割統合」ではなく、2つの学校を統合し、新たな学校を設置する「新設統合」を基本としています。  |
| 172 | 高陵小学校より安全な中宮北小に統合校を設置する。高陵小の校区割りを見直し、殿山第一小学校と中宮北小学校の校区に組み込んで、統廃合を進めていくと安全で安心な学校を創造することができると思います。  | 1  |   |
| 173 | 高陵小の校区割りを見直し、殿山第一小学校と中宮北小学校、磯島小学校など周辺の学校の校区に組み込んで、統廃合を進めていくと安全で安心な学校を創造することができると思います。特に高陵小学校の校区は崖もあり、そこから下は磯島小学校区、殿山第一小学校に近い東側の地区は殿山第一小学校に、そして、中宮北小学校に近い地域は中宮北小学校にと新たに校区割りをすれば、安全・安心な学校をすることができる。   | 1  |   |
| 174 | 中宮北小は、統合を急ぐ必要はない。高陵小との統合ということで、統合を急ぐ対象校になっているだけで、中宮北小よりもっとクラス数が少ない学校もある。児童数についても、校区の特徴で、高齢化はないため、今後も微減微増の推移となるだろう。児童数の多い学校が少ない学校への統合となると、児童にとっては、少ない学校のために学校を変ったという気持ちになる。また、より古い校舎の学校への登校となると、新しい学校を築くという観点と言われても、その気持ちは起きないのでは。高陵小の小規模校解消を急ぐのであれば、高陵小の児童を周辺の小学校へ分散させるというのは如何か。また、高陵小校区において、高齢者の持ち家を子育て世帯に貸し付けるマイホーム借上げ制度の普及を積極的にアピールしてはどうか。更に、大規模校区からの移住・転校促進や山村留学のような小規模校留学制度も検討したらどうか。小規模校解消の対象校にされている学校の児童、保護者、地域住民など当事者の意見をしっかり聞いていただきたい。 | 1  | 今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測される中、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけて取り組む必要があります。また、児童を他校へ分散させることは、困難であると考えております。なお、中宮北小は平成35年には8学級、平成40年には6学級規模になることが予想されています(枚方市人口推計より)。児童の少ない学校のために統合するわけではありません。高陵小のみの課題ではなく、中宮北小にとっても、現在、単学級が存在し、課題があります。仮に高陵小が統合校となる場合は、高陵小の校舎を長寿命化改修等を行い、施設・設備を整備してまいります。小規模校については、学校統合を基本方策として課題解消を図ることとされており、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。ご意見のとおり、今後、定住促進等の施策をさらに進めていくことが必要であると考えています。 |
| 175 | 高陵小学校と中宮北小学校の答申において「できる限り早期」に実施する事とあるが、高陵小学校グラウンド側に関西外国語大学が、特に宿舎を7階建ての分、4棟建設している事、子供の安心・安全な場所であるか疑問である。又、平成30年4月から関西外国語大学御殿山キャンパスが開校するための地域(特に高陵小学校側)安全等の問題あり。現在建設中の状態も良く見てほしい。   | 1  | 児童の安全安心は、学校統合に関わらず、最優先で取り組むべき課題と考えています。なお、関西外国語大学御殿山キャンパスの開校に伴って、学生の登下校時間と児童の登下校時間がずれると確認しています。また、「渚中宮線」に面したキャンパスの入り口予定地2箇所と、高陵小と面した北側の出入口に警備員が配置されることを確認していますが、大学宿舎の運営について注視してまいります。   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 176 | 学校の沿革という不明確な基準での判断はまったく理解できない。学校の沿革等から高陵小敷地が望ましいという判断は、中宮北小に沿革上何か課題・問題があるのか、あるのであればはっきりと提言に明記すべきではないか。どう考えてもおかしいし理解に苦しむ。文部科学省の公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引～少子化に対応した活力ある学校づくりに向けて～においても、読み方を変えれば「特別の事情があるときはこの限りでない」とされ弾力的な運用もあり、早急に解決しなければならない課題とは考えにくい。  | 1  | 現在の児童数の多少により統合校を選定するのではなく、枚方市学校規模等適正化審議会より「学校規模」「施設規模」「通学区域」「小中連携」「地域連携」の5つの視点から総合的に検討した結果、高陵小学校敷地に統合校を設置すると提言を受けたことによるものです。また、統合校設置場所の選定において特に重要であるのは、毎日通学する通学距離と通学路の安全であると考えています。統合した場合、校区の中央により近い学校に選定することにより、通学距離が短くなり、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。また、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置する方が少なくなります。文部科学省の手引きにある「特別な事情があるときはこの限りではない」とされた弾力的運用は、都市部にあるのか、過疎地にあるのか等も含め、地域の実情に応じて判断するものであり、本市においては、そのような特別な事情があるとは考えていません。 |
| 177 | 「沿革から考えて高陵小に統合校を設置する」という理由が、あまりにも子どもの数やこれからの学校体制など色々なことを考えているのに、そのような理由で高陵小の方がよいという考えが、あまりにも現実からかけ離れている。  | 1  |   |
| 178 | 子どもの数の推移で考えると今後減っていくとはいえ、高陵小学校区が中宮北小学校区より児童数が増えることはない。平成50年まで考えると高陵小学校を元にして考えると中宮北小学校は約2～3倍の子どもがずっと推移する。学校から離れたところに住む児童数も多く、近くに住む児童が少ないというのは学校の立地条件としては、有意な場所とは到底考えられず、中宮北小学校に統合校を設置すべきだと考える。また、空き教室は3つ程度確保でき、増改築がほとんど必要のない中宮北小学校に統合校を置くほうが、市民の納得できる考え方であると思う。                                | 1  | 平成29年度5月現在の児童数は、中宮北小学校が241名、高陵小学校は144名です。0歳～5歳児を見ても、中宮北小校区が277名、高陵小校区が178名と、現在の割合に比べ高陵小校区の0～5歳児の幼児の割合が多くなっています。   |
| 179 | 14 13番のパブコメに対して先日危機管理室より手紙にて回答を頂きましたが、今一番災害として危惧しているのは 生駒断層による地震災害だとおっしゃっていました。ここ最近未曾有、又想定外の地震災害が続き熊本でも龍田西小学校が新規開校と同時に震災に遭い、避難所として体育館が解放されましたが、法面の石垣にヒビ割れが見つかり崩壊及び 土砂崩れになる恐れがあると約千人が別の離れた場所に避難すると言うニュースがありました。このような想定外の地震災害に対して既にデータでは予測出来ないのではと考えられますが、今後教育委員会としてどのように防災計画を進めていられる予定なのでしょうか？ | 1  | これまでの震災により、見直しされた建築基準法に基づき、本市の学校は全て耐震化が完了しています。法面に対しましては土砂災害防災対策の推進に関する法律等において、30度を超える場合に危険とされています。ご指摘の箇所は人工的に造成され法面が30度を超えていないことを確認しています。今後、仮に法面等が危険があるということが、判明した場合は、児童生徒の安全のため、早急に対応が必要となります。なお、万一、法面に危険が想定されるのであれば、防災計画に反映する必要があるものと考えます。   |
| 180 | 15 今回の素案に書かれています、中宮北小と高陵小を特化して適正化を図るとありますが 答申を踏まえると言う事は、統合校を高陵小にすると言う事ですよね？地域防災マップでは中宮北小には浸水の危険があるとされていますが、生駒断層を含めた地震災害を想定した場合明らかに、土砂災害危険地区に近接し又大きい法面が有り、今現在でも土砂が溜まれば清掃するとしている高陵小の土地よりも中宮北小の土地の方が、一般市民の感覚としてまだ安全なのでは？と推測する事が出来ると思いますが、教委として14番の質問を踏まえてどのようにお考えなのでしょうか？                        | 1  | 敷地の安全性については、問題はありません。法面については「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。また、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておられません。さらに大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水について、適切な排水ができるよう整備されていますので、問題はありません。   |
| 181 | 16 文科省が出している小学校施設整備指針 第2章施設計画 第1節校地計画 第1校地環境1安全な環境と言う資料の中に(1)校地に接する道路の幅員、接する部分の長さ等を考慮し、緊急時の避難、緊急車両の進入等に支障のない敷地であることが重要である。死角等が生じない、見通しの良い地形であることが望ましい。と有りますが、高陵小と中宮北小とを比較した場合これは明らかに中宮北小の方がより安全であると言う事が解ります。これについて教委はどのようにお考えなのでしょうか？   | 1  | 両学校とも安全と考えております。  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 182 | 17 同じく小学校施設整備指針 第2章施設計画 第1節校地計画 第2 校舎・屋内運動施設 1 建物位置の中に(1)建物の敷地は、盛土部分並びに異なる地質及び地盤条件の混在する部分にまたがらず、かつ、土砂の流出するおそれのある部分に近接していないことが望ましい。と有りますが、高陵小と中宮北小とを比較した場合これは明らかに中宮北小の方がより安全であると言う事が解ります。これについて教委はどのようにお考えなのでしょうか？  | 1  | 25ページ NO.181にお示した考え方と同じです。   |
| 183 | 18 平成27年の12月、教育委員会の部長様が、市議会議員を通じ、高陵小土地の法面に関しては水路の整備工事が終了しており、土砂が溜まればすぐに清掃しますとおっしゃっていました。14.15.17の質問を踏まえて考えをお聞かせください。   | 1  | 敷地の安全性については、問題はありません。法面については「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。また、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておられません。さらに大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水について、適切な排水ができるよう整備されていますので、問題はありません。  |
| 184 | 今回の基本方針【改定版】は審議会報告内容の概要以上のものではなく、しかも、概要での問題を是正することなくそのまま引き継がれている。特に市民から寄せられた疑問への回答がなく、意見も全くと言っていいほど反映されていない。この学校規模適正化基本方針が、小規模校である高陵小学校を単に救済するための中宮北小学校との統合化案に矮小化され、中長期的な観点が欠落した、数字合わせの対処療法的な方針になっているとしか思えない。枚方市において、小学校は地域住民の自治に密接なかかわりがあるだけでなく、大規模災害時の避難場所など危機管理に重要な役割を持っている。そのため、自然災害による被害を未然に避けるために土地利用計画は必須だ。また、第5次枚方市総合計画で打ち出されている、人口流入を促進する計画を実行するためには、住環境や教育環境の維持向上が不可欠であり、学校配置の問題と関連するはずだ。今回の基本計画にある適正化計画は、「今次の小学校削減ノルマを決めただけ」との印象を与えていると思う。以上の観点から、中宮北小統廃合問題検討委員会として、次の提案を行いたい。この提案を再検討していただき、将来禍根を残さないよう慎重に進めていただきたく要望する。 | 1  | 学校は、避難所でもあるほか、地域住民等のスポーツ・文化活動に寄与する施設でもあると認識しています。学校の跡地活用に当たっては、学校が地域に果たしている役割を踏まえ、地域の方々のご意見をお聞きし、検討する必要があると考えています。ご意見を踏まえ、第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模 ②学校統合についてウ. 学校統合に当たっての留意事項の(e)に学校の跡地活用に関する文言を追加しました。また、本市では、平成28年3月に、第5次総合計画を策定し、あわせて、「枚方市まち・ひと・しごと創生戦略」に基づき、本市の出生率の向上や人口定住促進、人口誘導策等さらなるまちの魅力向上にむけた取り組みを行っています。同時に適正化は小学校削減のノルマの取り組みでなく、あくまでも子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に取り組みを進めているところです。  |
| 185 | 保護者や地域の意見を踏まえ 等の文章が多数記載されているが答申の説明会で多数の意見が出た・避難所の問題・「土地」「周辺道路の幅員」等の安全性比較・いきいき等の子ども中心の活動取り組みの比較・5つの視点が理解出来ない・保護者は小学校での「切磋琢磨」を求めている。この点は、どうなりましたか？教育委員会としては、今後 この意見をどの様に取り入れるのですか？「具体的」に教えて下さい。  | 1  | 学校は、避難所でもあるほか、地域住民等のスポーツ・文化活動に寄与する施設でもあると認識しています。学校の跡地活用に当たっては、学校が地域に果たしている役割を踏まえ、地域の方々のご意見をお聞きし、検討する必要があると考えています。ご意見を踏まえ、第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模 ②学校統合についてウ. 学校統合に当たっての留意事項の(e)に学校の跡地活用に関する文言を追加しました。また、敷地の安全性については、問題はありません。法面については「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づく調査を大阪府が実施したところ、危険斜度の下限である30度より緩やかであることが確認できています。さらに、対策工事がすでに完了しており、「土砂災害危険箇所」には、指定されておられません。加えて、大阪府が「災害危険箇所」に指定していないこと、法面の中腹にU字側溝が整備され、学校側からの雨水排水について、適切な排水ができるよう整備されていることを鑑み問題はないと考えます。道路の幅員についても問題ありません。また、土曜日の児童健全育成事業については、統合後も引き続き子どもたちのためにも活動できるよう、(仮称)統合協議会において検討される課題であると考えます。さらに、友人同士が互いに励まし合い、共に向上することは必要であると考えています。 |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 186 | 統合した場合のクラス数の予測を教えてください。統合後、小規模校になった場合、小規模校は、「問題である。課題がある。」としている枚方市としては、やはり統廃合を繰り返すのか。これから人口が減少して行くのであれば統廃合にこだわらず通学区域の変更ークラスの人数の変更も視野に入れるべきではない。我々が納得出来る説明をお願いしたい。また具体的な問題解決をお願いしたい。                            | 1  | 両校が統合した場合、平成55年度に、小規模校になるものと推計が出ています。今後小規模校が増えていく中では、通学区域の変更等では抜本的な解消にならないことから、学校統合を基本方策として課題解消を図ります。また、本市教育委員会においては独自の少人数学級編制を小学校4年生まで導入しています。更に、支援学級在籍児童については、在籍数をダブルでカウントする本市独自の学級編制を行っています。また、きめ細かな指導と学習の定着を図るため、算数・数学や英語など、クラスを分割して、少人数での授業を行っています。  |
| 187 | 避難所の件についても回答願いたい。教育委員会も避難所の件に関しては、十分責任がある部署だと思う。市教育委員会の考えをお示しいただきたい。4474名+4110名=8,584名 一つの小学校の体育館へ避難できるのか。近年、地震時等 車を取り入れて避難するケースが増えていると感じる。高陵小へは、車の乗り入れは可能なのか、対策をご教示いただきたい。高陵小前道路 4mの幅員で、避難物資がスムーズに届くと考えているのか。 | 1  | 避難所の収容人数についてですが、本市で最大の被害が想定されている地震は、生駒断層帯地震であり、地震が発生した場合の避難所生活者数(最大)は、47,000人と想定されております。枚方市の人口(平成28年12月末現在404,963人)が約405,000人ですので、避難者生活者の割合は47,000/405,000=11.6%となります。中宮北校区及び高陵校区の人口合算が8,584人ですので、両校区からの避難所生活者(見込)は、8,584×11.6%=約996人となります。これに対して、各小学校の受け入れ人数は、高陵小学校1,051人、中宮北小学校1,041人となっております。しかしながら、これらの数字は按分計算によるものであり、実災害時には、被害箇所の集中などで、想定以上の避難者が発生することが考えられます。その場合は、2次避難所である中学校を開設するなど柔軟に対応してまいります。また、高陵小学校前道路は、避難物資の搬入に問題はないと考えています。 |
| 188 | 中宮北小学校が少人数学級であるため、高陵小学校に統合とあるが、小学生の人数は統合すれば適正になるかもしれないが、例えば、小学校を避難場所と指定している以上、災害の際の高齢者を含めた収容人数については考慮されているのか疑問。  | 1  | 統合後の校区コミュニティのあり方については、本市の担当部署や当該校区コミュニティと十分協議を行い、まとめていく必要があると考えています。また、統合により新しい取り組み等が生まれることも考えられ、地域のさらなる活性化につながると期待できます。  |
| 189 | この20年近く、枚方市の基本施策としてきた小学校区毎のコミュニティ協議会活動の推進が、統廃合によって後退するおそれが出てくる。  | 1  | 統合後の校区コミュニティのあり方については、本市の担当部署や当該校区コミュニティと十分協議を行い、まとめていく必要があると考えています。また、統合により新しい取り組み等が生まれることも考えられ、地域のさらなる活性化につながると期待できます。  |
| 190 | 枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】の前提に、コミュニティ再編問題、校区再編・コミュニティ・スクール等がまったく配慮されていないことを改め、小規模校の問題点の解消だけでなく、これらをも十分考慮したうえで、枚方市学校規模等適正化基本方針を再び立案することを提案したい。  | 1  | 小規模校に関しましては、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、最優先課題として取り組むことが大切です。その上で、新しい学校を築く観点から統合に関する諸課題について、保護者や地域コミュニティ等へ十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があります。それを踏まえ、今回の基本方針(素案)をお示しさせていただいたところです。なお、統合後の校区コミュニティのあり方については、本市の担当部署や当該校区コミュニティと十分協議を行い、まとめていく必要があると考えています。   |
| 191 | 招提北中の地域は、小中連携から小中一貫となり、それにむけて地域もコミュニティを中心に「地域の子は地域で守り、育てる」とまとまってきた地域である。大人が一生懸命努力し、ここまで連携のできる地域になってきたのに、中学校がなくなってしまうたら、これまでの努力はなんだったのか。  | 1  | 学校統合は、地域のコミュニティにとっても重大な問題であると認識しています。コミュニティのあり方については、市の担当部署や当該校区コミュニティと協議のうえ進める必要があると考えています。  |
| 192 | 現状のコミュニティ組織を維持しながら、小学校が無くなった場合のコミュニティのあり方に不安を感じる。また、小学校区を1コミュニティにした場合、安全・安心の街づくりを維持・継続する上で、コミュニティ組織の負担が増えるのではないか。  | 1  |   |
| 193 | コミュニティも大切にしてほしい。   | 2  |   |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 194 | 中宮北校区では、コミュニティ協議会が中心となり、小学校を拠点に地域教育を20年以上にわたって進めており、いきいき広場や「伝統と文化」を大切にしている教育活動を通じて、子ども達の社会性を育てている。今後も、文科省が推進している「コミュニティスクール」を視野に入れ、現場の意見を多く取り入れた特色ある学校づくりにむけ、活動の活性化を図っていききたい。このような中、付け焼刃的な数字上からの学校統合論では、今後のコミュニティの活動維持が大きな課題となる。回答を曖昧、先延ばしにせず、コミュニティのあり方について明確な回答を希望する。  | 1  | 中宮北小校区におかれましては、地域教育について活発な活動をされておられます。統合後の校区コミュニティのあり方については、本市の担当部署や当該校区コミュニティと十分協議を行い、まとめていく必要があると考えています。統合により新しい取り組み等が生まれることも考えられ、地域のさらなる活性化につながるよう、進めてまいります。 |
| 195 | 少子化と同時に高齢化が進んでいる。介護保険法が改正されて、この4月から介護予防・日常生活支援総合事業としてスタートする中、校区コミュニティがその中心的役割を求められている。高齢者にとって身近に校区コミュニティがある事が必要だと思う。   | 1  |   |
| 196 | 20年以上前から、枚方市の取り組みとして、小学校区を中心とした、コミュニティの強化を図り、種々の市政に対する協力要請をコミュニティに依頼してきている現状を思う中で、コミュニティとして、小学校の存在、児童、保護者の存在が、高齢化している中で、年々大きくなっており、地域住民の融和に大きく貢献していると思います。<br>1. 小学校が存在するという中でコミュニティ活動をする上の学校の存在感。<br>2. コミュニティ組織を維持しながらの事業の進め方。…コミュニティの大きさが課題<br>仮に現状のコミュニティ組織を維持し、小学校が無くなった時への再構築への不安<br>3. 小学校区を1コミュニティにした場合の、安全・安心の街づくりを維持、継続する上での面積の拡大による、コミュニティ組織の負担増。<br>4. 現状の素案の付焼刃的な、この学校とこの学校を統合することだけで、将来も含め枚方市の教育行政がうまくいくのか？この問題は、枚方市の行政組織を縦断して、市長、市議会も巻き込んで、将来展望を見て進めるべき、大きな課題ではないか。予算も含め大きな問題として取り組む必要を感じております。 | 1  |   |
| 197 | 中部ブロックの高陵小と中宮北小の統合について、小規模校・統合ありきの考え方で検討が進められた提言であり問題がある。「通学距離や通学様態、校区範囲と学校の位置関係、中学校区との関係等から、高陵小学校と中宮北小学校との統合案が最善の方策であるとの結論に至り、統合校の位置については、学校の位置や保有教室数、学校の沿革等から高陵小学校敷地が望ましいと判断」とされているが、児童数の多い中宮北小の児童が交通量の多い道路を横断して登校する事になる。「通学路の安全性の確保」が現状よりよくなるのであろうか。「みんなで渡れば怖くない」では困る。  | 6  | 通学路の安全性の確保や、通学距離等、5つの視点から総合的に判断した結果、高陵小学校に統合校を設置することが望ましいと考えます。また、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置する方が少なくなります。   |
| 198 | 統合した場合、8割もの児童が交通量の多い道路を横断する事になり、危険を伴う。   | 1  |   |
| 199 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模②学校統合について ウ.学校統合にあたっての留意事項(a)学校統合の進め方について i)具体的な適正化方策を取りまとめた「実施プラン」を作成し、統合する3年前までを基本に「広報ひらかた」やホームページへの掲載、当該学校の保護者や地域コミュニティへの説明会等により公表し、オープンな形で進めて行く。となっている。また、iv)「統合協議会」を設置し、統合の方策を決定する。となっているが、具体的な適正化方策を取りまとめた「実施プラン」は「統合協議会」で作成するのか。  | 6  | 実施プランは本市教育委員会が作成します。実施プランの作成にあたっては、当該学校の児童や保護者、当該学校に関する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があると考えます。その後、(仮称)統合協議会を設置し、校名、校章、校歌など、統合に関する諸課題について協議してまいります。        |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 200 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 3. 適正化の留意事項 (1)児童生徒数の推移や住宅開発の動向などを十分見極める。とあるが、住宅開発の動向は、どの資料をもとに見極めているのか。特に今回名前が上がった2校区(中宮北と高陵)の住宅開発の動向は、何を根拠に児童数を弾き出したのか。   | 1  | 住宅開発の動向にあたっては、事前に開発協議や相談があるためその情報や開発余地等を考慮しています。中宮北小校区につきましては、UR都市機構の聞き取り調査を行なった結果、現在個別団地類型によりストック活用に類型(既存の建物を有効に活用して、従来どおり、適時適切な計画的修繕等を実施することを基本とする)されており、建て替えの計画はないとのことです。また、中宮北校区において住宅開発できる余地がありません。近畿財務局の枚方合同庁舎は、現在入居率が80%で毎年変動が激しいとのことです。今後、単身、独身の入居を増やしていく方向ということで児童の増加は期待できません。高陵小校区の空地につきましては、現在、高陵小学校の北側において住宅開発がされており、児童の増加が期待されます。 |
| 201 | 「高陵小と中宮北小の方策に取り組んでいく」とあるが、この地域は合同宿舎や公団住宅の跡地などがたくさんあり、駅からも比較的近いので今後の空き地が住宅地として開発される可能性は十分あると思う。そうなれば児童数がどれだけふえるか予想できない。   | 1  |  |
| 202 | 中宮北小や高陵小のまわりには、空き地がたくさんある。新しいマンションや住宅ができ、子どもの数も増えると考えられる。  | 1  | 中宮北小校区内にある空地は、枚方市水道局所管のものに関西外国語大学所有のもので、住宅開発される空地はありません。高陵小校区の空地につきましては、現在、高陵小学校の北側において住宅開発がされており、児童の増加が期待されます。しかし、この開発のみで適正規模校となることはありません。  |
| 203 | 中宮北小、高陵小は「できる限り早期」に実施ということですが、空地もあり住宅の建築計画はないのですか？   | 1  |  |
| 204 | 中宮北小学校校区には多くの団地があるが老朽化が進んでいる団地は今後、マンション等になる可能性は大きい。大型マンションが建設された場合、大規模校になる可能性があるがその点は、予測されているのか？団地が今後 どうなるのかを見定めてからの統廃合でも良いのではないのか？  | 1  | 中宮北小校区の中宮第三団地につきましては、UR都市機構に確認しておりますが、現在個別団地類型によりストック活用に類型(既存の建物を有効に活用して、従来どおり、適時適切な計画的修繕等を実施することを基本とする)されており、建て替えの計画はないとのことです。  |
| 205 | 文部科学省が示している「12学級を下回るか否かだけでは無く12学級を下回る程度に応じて、具体的にどのような教育上の課題があるのかを考えて行く必要がある。」との一文通り、11クラスの中宮北と6クラス高陵への統合理解説明をひとくりに考えるのは不可能だと感じる。教育委員会はこの点についてどのように考えているのか。   | 1  | 審議会の答申において検討されたのは、小規模校において、周りに隣接する校区の統合について5つの視点から検証を行い、中宮北小学校は高陵小学校との統合が最善であり、同様に、高陵小学校も中宮北小学校が最善であるとの検証を得たもので、ひとくりにしたものではありません。また、今年度中宮北小学校は10クラスとなり、2学年で単学級となっています。   |
| 206 | 文科省の統廃合の手引きと違う課題解消法を進める理由は何ですか？ 小規模校は統合により課題解消を図るとし進める事。<br>↓以下、文科省の統廃合の手引きより抜粋<br>○各市町村においては、これからの時代に求められる教育内容や指導方法の改善の方向性も十分勘案しつつ、現在の学級数や児童生徒数の下で、具体的にどのような教育上の課題があるかについて総合的な観点から分析を行い、保護者や地域住民と共通理解を図りながら、学校統合の適否について考える必要があります。<br>○また、一口に標準規模未満の学校といっても、実際には抱える課題に大きな違いがあります。このため、学校規模適正化7の検討に際しては、12学級を下回るか否かだけではなく、12学級を下回る程度に応じて、具体的にどのような教育上の課題があるのかを考えていく必要があります。<br>【9～11学級：半分以上の学年でクラス替えができる規模】おおむね、全学年でのクラス替えはできないものの半分以上の学年でクラス替えができる学校規模。<br>学校全体及び各学年の児童数も勘案し、教育上の課題を整理した上で、児童数予測等を加味して今後の教育環境の在り方を検討することが必要である。 | 1  | 文部科学省の手引きにおいては、小規模校は、交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちで、競争や切磋琢磨等による社会性や協調性などの育成においては、大きな妨げとなり、児童生徒の教育環境や学校運営において課題があることを大前提として、小規模校の解消等に向けた手引きを作成しています。当該校区においては、今後、児童数の増加が見込まれないことや、通学距離等の課題が比較的少ないことなどを勘案して適正化を図るもので、手引きに沿った適正化の取り組みであると考えています。  |
| 207 | 基本方針では、学校規模として、「12学級以上24学級以下」と書かれているが、文科省の「手引き」では、「12学級を下回る程度に応じて、具体的にどのような教育上の課題があるのかを考えていく必要がある」と記載されている。枚方市では、教育上の課題を検討することは無く、学級数という数字上事実だけで統廃合を進めることが、教育長が言われている「子ども達の未来への可能性を最大限に伸ばす学校教育の充実」というものなのか、明確な回答を要望する。   | 1  | 小規模校は、交友関係が限定されやすく、多様な考え方に触れる機会が少なくなりがちで、競争や切磋琢磨等による社会性や協調性などの育成においては、大きな妨げとなり、児童生徒の教育環境や学校運営において課題があると考えています。したがって、学校配置の適正化等によって教育環境の改善を図る必要があると考えます。   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 208 | 小中一貫校もそうだが国の方針をそのまま受け入れるのはやめて、枚方市は保護者や住民の意見をよく聞いてほしい。   | 1  | 答申にありました小中一貫校(施設一体型)につきましては、答申の説明会における意見も参考に、教育委員会として検討した結果、今後も先進校の視察や、調査、研究を継続していく必要があると判断し、基本方針【改定版】(素案)には掲載していません。また、学校規模等適正化の取り組みは、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があると考えます。   |
| 209 | 前回の説明会のときに必ず再度説明会を持ってくれると言っていたのにいまだない。住民との対話が必要と言っているのにおかしいし納得できない。   | 1  | 説明会時の校区コミュニティ協議会からの要望により、「中宮北小学校統廃合問題検討委員会」を窓口として説明会等の調整を行います。なお、平成29年1月には、コミュニティ主催により学校規模等適正化に関する勉強会を行いました。   |
| 210 | 前回の住民向け説明会の際には、基本方針として取りまとめていくにあたっては、きめ細かい説明会をしていく、という意見が教育委員会側から出ていたが、今後の取りまとめスケジュールはどうなっていくのか。前回の説明会も1度開催されただけで、出た質問への回答は書面で返されただけで、その後の意見交換会は開かれていない。今回のパブコメもやりましたという既成事実化するだけで住民の声はどのように反映されていくか、住民への説明会を含め、今後の策定プロセスを明確にして欲しい。   | 1  |  |
| 211 | 学校規模適正化について、地域の住人や保護者からは意見を聞いているだろうが、働いている教職員の声も聞くべきではないだろうか。校長が代表で意見を出しているかもしれないが、教職員の意見をまとめたものかどうか分からない。  | 1  | 基本方針でお示した高陵小学校と中宮北小学校につきまして、今後、教職員も含め、理解と協力が得られるよう取り組みを進めてまいります。   |
| 212 | 説明会の時に「意見を聞くなら、次はHPやきららなど特定の方しか分からないやり方ではなく、学校関係者はもちろん、地域の方(主に年寄り)にも分かりやすく、参加しやすい方法を考えて下さい」と意見が出てたかと思いますが…このやり方では前回と同じですよ？私たちの意見は無視ですか？1つ1つ相手が納得するまで対応するのは難しいかとは思いますが、そのようになるべく対応していくのが仕事の1つではないですか？この統廃合の件を、きっかけに市役所の方々が地域の方や反対されてる方々に歩み寄る気が全くない事がよく分かりました。それで、よく「子供達の為に統廃合を」と言えますね。100歩譲って、少子化で本当に統廃合する道しかない。と言われてても、あんな方針では納得出来ません。  | 1  | 定められたパブリックコメントの方法に従い基本方針の策定をするものです。しかし、説明会でご指摘があったことから、今回は、広報ひらかたや市ホームページでの公表、市役所本館・別館受付、各支所、生涯学習市民センターなど15箇所に意見回収箱の設置、全学校園の保護者への周知の他、前回のインターネットアンケートでは行っていない、審議会を対象とされた校区において回覧板によりパブリックコメントの周知をいたしました。また、パブリックコメントの期間も、前回より10日間長く期間をとりました。高陵小学校と中宮北小学校につきまして、今後、説明会を開催し、理解や協力が得られるよう取り組みを進めてまいります。 |
| 213 | 現在までこうしたことで教育的な論議がほとんどされてこなかったことが重要な問題である。今回の方針素案の中でもないし、昨年行われた説明会での市教委の説明でもほとんどなかった。これは、一番大切なところであるにもかかわらず十分説明されていないのは、意図的に避けているとしか考えられない。そのことと関わって、現場の教職員の意見を聞こうとしないことも問題である。以前も指摘させてもらったが、統廃合についての正しい情報が、当該校の教職員に知らされていないこと。ましてや、教職員の意見を聞こうとは全くしていないこと。これらのことは、「教育論」を避けていることと軌を一にしていると考えられる。統廃合を進めるに当たって、生徒や保護者と直接対応するのは教職員である。また、統廃合という大きな教育に関わることは、教職員にとっても重要なことである。現場の教職員を「茅の外」に置くことは、論外であると考え。 | 1  | 学校規模等適正化審議会の委員には学識経験者の方も含まれており、審議会において十分な教育的論議を経て枚方市立小・中学校の配置等の適正化について(答申)がとりまとめられたものです。今後、教職員の方々を含め、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。   |
| 214 | 答申の説明会で出た意見をきちんと受け止めてほしい。   | 1  | 答申の説明会でいただいたご意見等も参考に、基本方針の改定版(素案)をとりまとめたものです。  |
| 215 | 保護者や地域の意見を踏まえ等、市民の意見を聞き入れる様な事が記載されているが、具体的にはどの様に地域住民の意見を組み入れていくのか？統廃合対象の校区でアンケート等を取る予定なのか？  | 1  | 今後、教育委員会の基本方針が定まった段階で、具体的に疑問や質問に対して相互理解が得られるよう取り組みを進めていきます。  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 216 | 手引きには「地域コミュニティの核としての性格を有する小・中学校の統合は、行政が一方向的に進めるものではなく、関係者の理解と協力を得て行われなければならない。そのためには、保護者や地域住民と危機意識や課題認識、将来ビジョンを共有するプロセスが重要」とも書かれているが、現在、保護者や地域住民に危機意識や課題認識、将来ビジョンが共有できているとは思えない。  | 1  | 基本方針を策定するにあたり、学識経験者や地域の代表者からなる審議会に諮問し、インターネットアンケートにより広く市民の皆様の意見を伺い、その意見を参考に答申が出され、その後教育委員会におきまして、その答申の説明会を開催し、意見をお聴きした上で基本方針(素案)を作成しました。今回は、その基本方針(素案)のパブリックコメントを実施したところです。今後も、課題認識や将来ビジョンを共有するため、当該地域の皆様を対象に説明会を実施し、理解と協力をいただきながら、進めてまいります。                         |
| 217 | 子供達の事はもちろん、地域の方の話をもっと、ちゃんと聞いて考えて下さい。  | 6  | 児童生徒の人数が減少している状況において、児童生徒のこと、枚方市民全体のこと、そして地域の皆様のことを考えた上での取り組み方針としています。今後も子どもたちの健やかな成長と学校環境の充実を第一義に、当該地域の保護者や地域の皆様からご意見をいただきながら、適正化について取り組んでまいります。  |
| 218 | 住民や学校、地域に十分な説明もなく、パブリックコメントだけで統廃合を進めることに疑問を感じる。学校はそこに通う児童や保護者だけのものではなく、地域にとって大切なものなので十分に多くの人の意見を聞いて検討していただきたい。  | 1  | これまで審議会の答申に対する12回の説明会を実施し、意見を聞いてまいりました。この度、答申を踏まえるとともにいただいたご意見を参考にとりまとめた基本方針の素案について、パブリックコメントを実施しています。今後、基本方針が定まりましたら、具体的な統合方策をお示した学校規模等適正化実施プランの策定に向け、高陵小学校と中宮北小学校につきまして説明会を開催し、理解と協力が得られるよう取り組みを進めてまいります。  |
| 219 | 現在、中宮北小学校では、学校規模等適正化に関する中宮北小統廃合問題検討委員会と市教委とで「勉強会」などを実施し今後の統合について話し合っているところである。中宮北校区では、7月に開催された答申の説明会後、再度の説明会もない状態で、今回の方針の素案に【今後は、答申において「できる限り早期」に実施することとされた高陵小学校と中宮北小学校の方策に取り組んでいく】と名前が記載されていたので驚いた。統合をこのまま進めるのは絶対に反対である。今後も何度も地域住民に対しての説明会を開催していただき住民の意見をちゃんと聞いて欲しい。 | 1  | 高陵小学校と中宮北小学校を記載しておりますのは、市内小中学校の内、既に両校とも小規模校で最も小規模化が進んでおり、審議会答申において「統合の実施時期はできる限り早期」とされたことを受け、教育委員会は、今後、この2校の教育環境の改善に取り組む必要があることからお示したものです。学校規模等適正化の取り組みは、今後、具体的な取り組み内容を示した学校規模等適正化実施プランの策定を行うため、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進める必要があると考えます。 |
| 220 | 中宮北小学校区については、大げさだが独自の活動・文化があり、現状において可及的に統合しなければ困るような事情もないので、慎重に時間をかけて無理のないよう進めていただきたく思う。  | 1  | 中宮北小学校区における活発な地域教育活動については承知しています。今後、学校規模等適正化の取り組みは、当該学校の児童生徒や保護者、教職員、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めてまいります。   |
| 221 | 今回の意見を踏まえて、教育委員会が責任をもって、学校ごとに説明会の開催をすべきだと考えます。学校は、子ども達と地域の拠点です。教職員と保護者に、説明会も通じて、意見を聞くべきではないでしょうか？   | 1  | 答申につきましては、学識経験者や地域の代表また、PTAの代表を含めた審議会において提言を受けたものです。基本方針は、その答申を踏まえ、パブリックコメントを実施し、小規模校の解消のため本市教育委員会の基本方針として策定するものです。今後、基本方針が定まった段階で、統合の対象とした高陵小学校と中宮北小学校につきまして、相互理解が得られるよう取り組みを進めていくものです。   |
| 222 | 「基本方針の素案」の段階で、教育委員会が責任をもって、説明会をして疑問や不安に答えてほしい。  | 5  |  |
| 223 | 今までのパブコメの意見や説明会で出た疑問や質問に対して、教育委員会は自分達の考えを理解させるいわゆる説得とも言える回答が多く、その解答が更に疑問を生むと言う繰り返しで、全くコミュニケーションどころか説明責任を果たせていないと思いますが、いかがでしょうか？   | 1  |  |
| 224 | 前回の説明会は、「審議会『答申』」の説明でした。よって、教育委員会が肩代わりをして、説明をおこなったと思いますが、今回は、教育委員会が改定する素案です。教育委員会が責任をもって、説明会を開催し、疑問や不安に答え、変えるべきことは変えなければいけないのではないのでしょうか？  | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 225 | このアンケートについての説明会(集約結果とその解答)を開いてほしい。集約に1ヶ月として5月には説明会を開いてほしいがいかがか。   | 1  |   |
| 226 | 答申案に対するパブコメ、答申の説明会、基本方針素案のパブコメ等、地域住民・保護者とのコミュニケーション(相互理解)がないまま統合ありきで話を進めていこうとするスタイルは行政が一方向的に進めていると感じられませんか？   | 1  |   |
| 227 | この素案では、審議会答申を踏まえるとありますが、市民は審議会答申に納得をしていません。その答申を踏まえるというのは、市民の意見は聞かないということでしょうか。また、検討対象校で開催された説明会の意見を参考にされたと記載されていますが、説明会での反対意見が多かったにも関わらず、市民の疑問や不安にも応えないまま素案が出されたことに、不信感を感じます。  | 1  |   |
| 228 | 説明会や意見交換をもっと頻繁に開催してほしい。前回の説明会の時もすごいわかりにくい通知しかされず、また、将来小学校に通わせる未就学児園児たちの保護者には案内がいきわたらなかつたように思う。自分の地区が統廃合対象になっていることを知らない保護者もいるのではないか。ぜひ、保育所、幼稚園にも説明にすることを望む。  | 1  | 31ページ NO.221にお示した考え方と同じです。  |
| 229 | 枚方市学校規模適正化方針についての説明会を「案」の段階で必ず開催していただきたい。答申の時の様に決定後の説明は絶対にやめていただきたい。  | 1  |   |
| 230 | 説明会を保護者、学校関係者だけでなく、広く地域住民の理解、合意を得るため聞いてほしい。先に統合の方向を決めてしまってから合意を求めるとはしないしてほしい。   | 1  |   |
| 231 | 各地域で答申の説明会を実施したと思うが、その中で、答申案の内容に様々な問題点があり答申案として、なしていないことなどたくさん指摘があった。その答申案を受けた形で枚方市学校規模等適正化基本方針【改定版】(素案)を出したということに、枚方市の行政、教育委員会に対して大きな不信感を抱く。答申の説明会では、このことについて話し合いの場を持つと言ったにも関わらず、その答申を受けてこのような内容を出すというのはおかしいと考える。説明会の場だけをやり過ぎたらいいという姿勢さえ感じる。 | 1  |   |
| 232 | 適正化には現場の先生方、PTA、地域の声をもっと聞いてすすめるべきです。  | 1  | 今後、教育委員会の基本方針が定まった段階で、教職員や保護者や地域の相互理解が得られるよう取り組みを進めていきます。   |
| 233 | 統合校が高陵小学校に決まったとして、親が納得していないのに、そのことを子どもたちに説明できない。市は子どもたちに対して納得のできるように説明できるのか。「子どもたちのため」ときれいな事のように言っているだけのように感じる。本当に子どもたちのためなら、子どもたちにも説明してほしい。  | 1  | 子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け、取り組んでいく必要があると考えます。また、学校規模等適正化の取り組みは、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。統合校設置場所の選定において特に重要であるのは、毎日通学する通学距離と通学路の安全であると考えています。統合した場合、校区の中央により近い学校に選定することにより、通学距離が短くなり、かつ公平で子どもたちのためになると考えています。また、渚中宮線を横断する児童の数は、高陵小学校に統合校を設置する方が少なくなります。このことは、子どもたちにも十分理解していただけるものと考えます。 |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 234 | 統合する学校間において、円滑な統合に向けての取り組みとあるが、現時点でも説明責任が全くされていない。出来ない事は記載すべきではない。説明は、学校 教育委員会の「責任」だ。中宮北小校長先生にも、色々な事に敏感になっているこの時期だからこそ行事、取り組み等 変更する事がある場合は、何度も「前もって説明するよう」に様々な方がお願いしているが全く改善されず、学校への不信感が募っている。例えば中宮北小と高陵小の3年生が合同で遠足に行ったとの話は、開催後暫くしてからお便りがあった。なぜ、実施前に説明がないのか。これは、統合に向けた取り組みか、都合が悪い事は隠したいのか。合同で遠足に行くことは、悪い事だとは思わないが、不安に感じる子どもや保護者がいるのも事実だ。この様な重要な事は事前に説明いただきたい。統合に関しては、既に子ども達に大きな影響が出ていると感じている。今も出来ていない「心のケア」は、統合した場合、さらに難しいと思う。何も子ども達を犠牲にせず、なんとかしていただきたい。中宮北小だからこそ出来ていた行事や日常の出来事すらもいつの間にか出来なくなっていると感じる。統合する為に、子ども達の可能性をつぶすことは絶対に辞めていただきたい。 | 1  | 今後、教育委員会の基本方針が定まった段階で、具体的に疑問や質問に対して相互理解が得られるよう取り組みを進めていくものです。学校の合同行事につきましては、小規模校には課題があることから、これまでから、統合に関係なく合同行事を行ってきているものです。学校に確認をしましたが、校外学習については、前もって学年便りでお知らせをしていることです。学校統合にあたっては、環境の変化による児童生徒の心のケアに配慮し、教職員の適切な人事配置に努めていきます。 |
| 235 | 中宮北と高陵を一番に進めると明記した以上、この数年は他地区は一旦置いておき説明会を定期的に関き徹底的に議論の場を開くことを求める。   | 1  | コミュニティの要望により、「中宮北小学校統廃合問題検討委員会」を窓口として説明会等の調整を行います。  |
| 236 | 統合ありきではなく、学校をどうするかについては、地域の父母の意見を十分に聞いてほしい。十分な教育論議をしてほしい。   | 1  | 当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。  |
| 237 | 学校の統廃合を前提とした学校規模の適正化は行わないでほしい。  |    | 今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測され、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を優先課題と位置づけ、取り組む必要があります。このため、中長期視点に立ち、学校統合を中心に据え、課題解消を図っていきます。   |
| 238 | 子ども達のためにも統廃合に反対する。  |    | なお、学校統合にあたっては、児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。   |
| 239 | 答申の説明会で「答申」の撤回、反対の意見もあったが、「答申」を踏まえた方針はどういうことなのか。  | 1  |   |
| 240 | 統合のことについて、「市民や保護者から意見を聞いてから答申を出すべき」という当然の声にたいして、「答申を踏まえる」というのは、どういう論建ででしょうか。「答申の『撤回』『反対』」の声も説明会でございましたが、どう説明されるのでしょうか？  | 1  |   |
| 241 | 答申案の説明会では、答申の撤回・反対の意見もあった。なのにその答申を踏まえた方針とはどういう事か？保護者・地域住民の意見をどう考えているのか？   | 1  |   |
| 242 | 統合自体もまだそれほど早急にする必要がないのではと思う。  | 1  |   |
| 243 | 統合を決めてから出していくのはおかしい。安易に統廃合を提案してほしくない。   | 1  |   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 244 | 市民や保護者の意見を踏まえた計画にするために、最初からやり直しをしてほしい。  | 4  | 33ページ NO.237にお示した考え方と同じです。  |
| 245 | 今こそ市の対応が期待されていると思う。市民・保護者の声を聞き素案を考え直してほしい。  | 1  |   |
| 246 | 改定版は読みやすくまとめられている。児童生徒の減少の中、これだけの学校数は不要だろうという行政サイドの問題意識が読みとれる。  | 1  |   |
| 247 | 統合ありきで強引に適正化を進めるため、突然説明会を行うような方針は中止してほしい。   | 1  |   |
| 248 | 基本方針【改定版】(素案)は納得できない、中止にすべき。  | 1  |   |
| 249 | あの方針では、悪い言い方をすれば、後から「こうするつもりでした」や「元々、こう言う計画です」と言い訳出来る方針ですよ。あれを基準に進めるのに、そんなに不透明な方針でやるんですか？後から、取って付けた様な計画を出して来て、今回みたいに市民の反対があった時また、「はいはい」って右から左にききなすすんですか？あれは、方針と到底言えないとおもいます。あれを方針と言うならば、市役所の方々に都合のいい様に作られた、子供の事や、地域の方、保護者を無視した方針です。   | 1  |   |
| 250 | 学校統合するにあたり様々な問題があると思う。そのことについて再度協議し、提案し直してほしい。  | 1  |   |
| 251 | 明倫小学校と、中宮小学校の合併について小学校の合併は反対である。  | 1  | 高陵小学校と中宮北小学校以外の小規模校の取り組み方策については、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。 |
| 252 | 高陵小と中宮北小以外は、「5年後を目途として改めて示していく」というのは、答申の方向で示していくのでしょうか？ そうならば、今回の素案で、市民や保護者から批判の声が多数あがった、小中学校20校が関わる「統合」を決定することなのでしょうか？   | 1  |   |
| 253 | 川越小の適正化について、もし実施されたら、元村野小の校区の人たちは、短い間に2回も苦渋を味わうことになる。そのことについて、市はどう考えるのか。枚方市の端だからといって、いつも犠牲にさせられるのは気の毒で仕方がない。村野中がなくなり、遠い東香里中に行かされ、また今度は四中と転々とさせられる。開成小、四中にまで行く必要があるのか。元村野小の子が多い、桜丘小に行かせてあげればよいのではないか。そのあたりのことは、対象となる住人の意見をしっかり聞いてもらいたい。20年とたたないうちに、また適正化の対象となるとは、もっと長期スパンで人口推移を見て計画実施すべきだったと感じる。軽率な統廃合・適正化は、市民を振り回し子ども達の心を傷つける。よくよく考えて言っていただきたい。5年間は人口推移をみるとのことだが、もっと長くてもよいと感じている。 | 1  |   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 254 | 開成小学校への統合となれば、第四中学校への進学と変更になる。四中での地域活動も経験なくどのような地域かも解らず不安要素が大きい。何より今後の住宅開発で、開成小や四中は更に児童生徒数が増えて、過密校となるのが推察できるのに、この提言はおかしいのではないか。また、村野中学校閉校後、ようやく東香里中にも慣れ、気持ちも落ち着いてきたのに更に四中への変更とは、地域を軽く見ている。校区割変更も視野に入れるべきだ。子ども達の行動範囲が広がり過ぎ、また人気の少ない階段や坂道、田畑の通学は、いろいろな事件や事故の元になりとても危険だと思う。  | 1  |  |
| 255 | 山田小の父兄です。現在、山田小は小規模校ですが児童に対し目が行き届いているかといえば全くそうではないです。にもかかわらず適正校の交北小に山田東の3校が合併されれば現状を鑑みれば教育の質の低下は必然でありとても賛成出来るものではありません。以前にも話させてもらいましたが登校距離や登校ルートに関しての回答も全く納得できるようなものはいただいておりません。よいコネットの防犯情報がよく入ってくる今、小さな子供をもつ親としては都丘から交北小まで通わすことはとても危険と考えております。また、中学校との一貫教育についてもメリットよりデメリットの方がかなりのウエイトを示すのではないのでしょうか。年齢幅が広がるにつれ、いじめ等の問題も幅が広がるのではないのでしょうか。統廃合の計画は現在伸びましたが、私は延期ではなく廃止としていただきたい。 | 1  | 34ページ NO.251にお示した考え方と同じです。   |
| 256 | 基本方針には反対である。山田小は100年以上の歴史があり、父、母、息子、孫と3代にわたり通学した家族もたくさんいる。学校は地域の文化、コミュニティの中心であり、若い家族も集まり、防災の避難所でもある。  | 1  |  |
| 257 | 歴史ある山田小学校を廃校する事しか考えず、存続するよう努力してほしい。   | 2  |  |
| 258 | 住民の皆さんが納得しないままに、統合するかどうかのラインを決めてしまうことについて反対する。統合するかどうかの基準を決めてしまうと、その基準に達したところは統合ありきになりかねない。それでいながら、中宮北小・高陵小以外の学校については、校名を明らかにせず、基準だけを決めようとする今回の素案は、統合が「白紙」になった「安心感」さえ感じさせ、その意味では、住民に対して不親切である。  | 1  |  |
| 259 | 小規模校が隣接して子どもの数の推移から考えても「…一定規模の児童生徒集団が確保されること等が望ましいことから…」という基本方針はわかるところがある。ただ、統合の仕方については、なにひとつ明記されておらず、この様な状態で基本方針【改訂版】を出すのはおかしい。また、基本方針改定後に「こうなります」とされるのは、考え方としておかしい。完全にぼやかした状態なので一体何を考えているのか、何が基本方針なのかかわからない。  | 1  | 基本方針を策定するにあたり、学識経験者や地域の代表者からなる審議会に諮問し、インターネットアンケートにより広く市民の皆様のご意見を伺い、その意見を参考に答申が出され、その後、教育委員会におきまして、その答申の説明会を開催し、意見をお聴きした上で基本方針(素案)を作成しました。今回は、その基本方針(素案)のパブリックコメントを実施したところです。今後も、課題認識や将来ビジョンを共有するため、当該地域の皆様を対象に説明会を実施し、理解と協力をいただきながら、進めてまいります。 |
| 260 | 基本方針の見直しについて、国の方針によって見直すではなく、枚方市独自の基本方針を住民と共に作ってほしい。  | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 261 | 説明会で意見が多かった避難所のことがかかれていないのはなぜか？住民や保護者の意見をふまえ、最初から直してはどうか。  | 1  | 学校は、避難所でもあるほか、地域住民等のスポーツ・文化活動に寄与する施設でもあると認識しています。学校の跡地活用にあたっては、学校が地域に果たしている役割を踏まえ、検討する必要があると考えています。ご意見を踏まえ、第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模 ②学校統合について ウ. 学校統合にあたっての留意事項の(e)に学校の跡地活用に関する文言を追加しました。  |
| 262 | 統合の方向ありきの素案に疑問を感じます。素案の「2. 適正化の実施」の項。「(1)学校規模」で、「(1)学校規模について」と論じ、小規模校、大規模校、過密校と問題点を指摘しているにも関わらず、なぜ、「(2)統合について」だけの項目なのか？なぜ、大規模校、過密校の問題を論じないのか？統合ありきと見て取れます。   | 1  | 大規模校及び過密校につきましては、校舎の増築等、各学校の実情に応じた支援策を構じ、課題解消に取り組んでいます。  |
| 263 | 「答申をふまえる」ということは、答申で述べられている、統合とともに、施設一体型の小中一貫校にむけて動くのでしょうか？答申そのものも、基本方針(改定版)素案で、説明しなければ、何を「踏まえる」のかわかりかねます。  | 1  | 審議会より「学校統合により、小中一貫校(施設一体型)を設置する。統合の実施時期については、早期とする。」との答申をいただきましたが、教育委員会として検討した結果、小中一貫校(施設一体型)の設置については、今後も先進校の視察や、調査、研究を継続していくことが必要と判断させていただきました。基本方針(素案)においては、児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途に改めて示していくとしました。                        |
| 264 | 地域防災について、先般枚方市の危機管理室より地域防災計画の(案)についてパブコメを募集されていました。その中に今回修正された内容と言う中に機構改革として今まで公共施設部だった組織が廃止され教育委員会管理部教育環境整備室に移管するとなっております。この案が案で無くなれば、地域防災計画も小学校の統廃合に大きく関係してくると思われ、これを検討していない学校規模適正化審議会の答申は改めて見直す必要があると思われませんがこれを一切見直さず、踏まえるとした理由は何なのでしょう？                                  | 1  | 学校統合による学校規模等の適正化については、教育環境の整備・向上のため重要な取り組み課題であり、市関係部局との連携・調整を行っています。   |
| 265 | 利害関係者の会長の答申の有効性、判断基準の曖昧な総合的判断という言い訳、市長が関与していない証明なにつ納得のいく回答が無いまま進んでいく事には徹底的に反対する。少なくとも地域住民の中で何も理解・合意は一切進んでいない。  | 1  | 審議会においては、市内45小学校及び19中学校すべてを対象に公正・公平な立場で審議をしていただいたものと考えております。   |
| 266 | パブリックコメントなどで出た意見を真摯に受け止めてほしい。  | 1  | 基本方針を策定するにあたり、学識経験者や地域の代表者からなる審議会に諮問し、インターネットアンケートにより広く市民の皆様のご意見を伺い、その意見を参考に答申が出され、その後、教育委員会におきまして、その答申の説明会を開催し、意見をお聴きした上で基本方針(素案)を作成しました。今回は、その基本方針(素案)のパブリックコメントを実施したところです。今後も、課題認識や将来ビジョンを共有するため、当該地域の皆様を対象に説明会を実施し、理解と協力をいただきながら、進めてまいります。 |
| 267 | 基本方針は、昨年の地域での説明会で出された様々な意見や疑問に答えたかのような書き方をしているが、実際には小学校11学級以下や中学校8クラス以下については、統廃合を基本に解消していくということなど、最も重要な点は、何ら変わっていない。そこを、正確に広く知らせないと、誤解を広げるので、「説明会」をするなど詳しい正確な情報を知らせる方策をとるべきだと考える。そういった点で、今回のパブリックコメントも、市民の意見を本当に聞こうとしているのか疑わしい。市民に正しい情報を十分知らせることなく、形だけ意見を聞いたということになることを危惧する。 | 1  |  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 268 | (1)「説明会においていただいたご意見等を参考に」と述べられていますが、どこを参考にされたのでしょうか？  | 4  | 説明会において、審議会答申で、「統合の実施時期については、今後の児童・生徒数の推移を見定めること」とされた学校について、「まだ決まっていない中で不安が大きい」という意見が多数出たことから、今回、統合に取り組むこととした高陵小学校と中宮北小学校の2校以外について、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに、個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示していくとしました。 |
| 269 | 市役所が出された方針、読ませて頂きました。率直な感想としましては、「ざっくりとした計画(方針)ですね。」と思いました。まず、答申の段階で説明会で色々指摘があった点は何一つ、明確に記載されていない。  | 1  |   |
| 270 | 基本方針【改定版】(素案)は、これまで行ってきた説明会で出た意見を踏まえての改正案ということであるが、どこを具体的に変えたのか。変えた部分に下線をひくなり、新旧で対応させるなり、具体的に改正した箇所を示して、再度説明会を開催するべきである。  | 1  |   |
| 271 | 今回の「改訂版」(素案)は平成27年末のものと同様に基本的には同じです。昨年(28年)の山田小学校体育館での説明や意見をふまえたものになっていません。   | 1  |   |
| 272 | 「(2)学校統合について」では、なぜ、「検討対象校は小学校9校、中学校2校」として、学校名を出さないのでしょうか？ どこか、市民にはわかりにくいです。   | 1  |   |
| 273 | これまでの意見交換会やパブリックコメントで出された意見が十分反映されていないと思われる。例えば、住民側からは、統合をする必要がない、といった意見も出されていたが、今回の基本方針では、これまでと同じ論拠の説明をするだけで、新たに何か論拠を出すわけでもなく(例:住民アンケートを実施する等)、従来通りの主張となっている。これでは、意見具申してきた意味がないし、住民側も納得感が全くない。市民無視の議論となっている。 | 1  |   |
| 274 | 学校統合の検討にあたっては、保護者・地域の方々の意見を踏まえながら進める。と書かれているが、現時点でも子ども、保護者、地域の意見を聞き入れて頂けるとは「到底」思えない。答申の説明会の意見等はどうか。全く地域、保護者の意見等取り込めていないと感じる。理想だけで出来ない事は記載するべきでは無いと思う。意見を聞き入れているのであればどの部分かご教示いただきたい。                           | 1  |   |
| 275 | 市内12校について「説明会」を開催したとあるが、全ての参加者から反対意見であったのが現実であったと思うが、平成28年3月の枚方市立小・中学校の配置等の適正化についての答申と比較して、一体、何が、どのように変わったのか。   | 1  |   |
| 276 | 現在2歳と4才の子供がおり、上の子は2年後、小学校に通うことになるが、川越小から開成小へ統合を知り驚いた。現在通学している子供は知っていたのかもしれないけど、もっと知らせる努力もせず勝手に方針を決めるのは市民を馬鹿にしている。   | 1  | これまで、広報ひらかたやホームページなどを活用して周知してまいりましたが、さらに広く市民への周知方法について検討します。  |
| 277 | 一般住民で基本方針を知らない人々が多い。皆に知らせる努力をしてほしい。   | 1  |   |
| 278 | 学校と関わり合いがある方たちには、この基本方針改訂版(素案)に対して意見が出しやすいが、地域住民にはまだまだお知らせ、情報が届いていない。もう少し市民の皆さん、一人ひとりが知り得るようにしてほしい。   | 1  |   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 279 | 何故勤務先が無いと受け付けていただけないのでしょうか。   | 1  | パブリックコメントについては、枚方市パブリックコメント実施要領に基づき「市政への市民等の参加を促進すること」などを目的に実施しているものです。なお、収集させていただいた個人情報については、「枚方市個人情報保護条例」に基づき適切に管理しています。  |
| 280 | パブリックコメントをするにあたり、氏名、住所、電話番号などの個人情報を必須項目とする理由が分からない。枚方市外在住や勤務先、通学先も枚方市外という人でも、枚方市政に高い関心を持っている人もいます。そういう人は意見する立場にないということか。何かしら意見しようと思って、このページを訪れたとしても、コメントする前に、委縮、もしくは遠慮してしまう。パブリックコメントは、様々な人から広く意見を聞くことに意義があると思うので、性別・年代が分かれば十分なのでは。 | 1  |   |
| 281 | このアンケートに電話番号が必須となる訳を説明してほしい。聞きたいこと・問い合わせは電話以外の通信手段もある。市民の個人情報が漏れた時、誰がどのように責任をとるのか。リスクは最小限にすべきである。   | 1  |   |
| 282 | 解答も含めて全てのアンケートを公開すること。  | 1  | 同じ趣旨のご意見については、要約して1つにまとめ回答し、枚方市ホームページ等にて公開しています。  |
| 283 | 前回実施されたパブリックコメントの結果公表の中に、提出した意見が載せられていない人が何人もいた。市の責任で、全ての意見に答えるべきである。   | 1  |   |
| 284 | 枚方市学校規模等適正化審議会には、地域コミュニティも数名委員としているが、単に行政側の客観性、公平性を装う存在にすぎないのではないかと。  | 1  | 審議会は、学識経験者や校区コミュニティ連絡協議会・PTA協議会・民生委員児童委員協議会・校区福祉委員会協議会・青少年育成指導員連絡協議会・青年会議所などの市民団体・関係団体を代表する者で構成され、多角的、多面的な視点からの審議をお願いし、答申としてまとめられたものです。   |
| 285 | 「小規模校は切磋琢磨できない」という文言にとっても驚いた。切磋琢磨することだけが教育ではない。いろいろな問題を抱えている子が増えているので、一人ひとりに合わせた支援教育ができるのではないかと。  | 1  | 学校規模等の適正化の検討にあたっては、関係法令による国の考え方を基に「学級」をカウントしています。一方、本市教育委員会において配慮が必要な児童・生徒への支援や指導については、児童・生徒一人ひとりを大切に、個に応じた支援を行っています。   |
| 286 | 市のピーク時と現在の児童生徒数との人数比較は、余裕教室等の必要見込み数の算出の点では意味がないのでは。また、隣接する学校と統合した場合において、ウ学校統合にあたっての留意事項 c統合校の学校の規模について「常態的に大規模校にならないこと」と記載されているが、児童数の規模が適正でも、教室が不足する過密校にならないようにすることも忘れていただきたい。  | 1  | 大規模校及び過密校については、校舎の増築等、各学校の実情に応じた支援策を講じ、課題解消に向けて取り組んでいます。なお、隣接する学校との統合にあたっては、大規模校だけでなく常態的に過密校とならないことも当然であり、ご意見を踏まえ、第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模 ②学校統合について ウ. 学校統合にあたっての留意事項の(c)に過密校の文言を追加しました。 |
| 287 | 大規模・過密校の解消を先に取組まないといけないのではないのでしょうか？   | 4  |   |
| 288 | 大規模校では教室が足りない等、劣悪な環境だ。子どもたち一人ひとりに豊かな教育を与えられる環境整備を望む。  | 1  |   |
| 289 | 大規模校(たとえば津田南小など)については、子どもは減るまで辛抱なさいといった認識しかないように思われる。小規模校統廃合よりこちらの対応の方が先決ではないだろうか。  | 2  |   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 290 | 大規模校について、具体的な対策が何も示されていないのはなぜか。今現在の在校生に対しては何も対策をしないのか。小規模校よりも津田南小学校の子ども達の方が毎日に学校生活において大きな問題を抱えていると感じる。教育委員会は、津田南小学校の問題を把握しているのか。  | 2  | 38ページ NO.286にお示した考え方と同じです。   |
| 291 | 過密校の対策が具体的でない。大規模校の日常生活、運動会行事などは大変であり、また、避難訓練などは危険である。聞き取りでなく実際に見て、安全な学校生活を保障してほしい。   | 1  |  |
| 292 | 65年前の基本方針改定版にも記載があった大規模校・過密校の課題解消について 教育格差が生じる為早期に解消しないといけないとされていた方策はなぜ小規模校課題よりも早期に対応されないのですか？（津田南小）  | 1  |  |
| 293 | 過密校の職員の問題、教育のあり方、行事への対応等、緊急に取り組む課題からすすめてほしい。  | 1  |  |
| 294 | H55年までの予想はできて、今現在の過密校のことは、そのうち減少していきたくらうと放置するのか。  | 1  | 学校規模等の適正化の検討にあたっては、関係法令による国の考え方を基に「学級」をカウントしています。一方、本市教育委員会において配慮が必要な児童・生徒への支援や指導については、児童・生徒一人ひとりを大切に、個に応じた支援を行っています。  |
| 295 | 支援学級をカウントしないで考えるのは支援が必要な子ども達の学ぶ権利を無視していると感じる。支援学級はその年によってクラス数が違うもので、カウントしにくい、インクルーシブ教育の推進や合理的配慮の提供が重視される流れの中で、逆行しているのではないだろうか。  | 1  |  |
| 296 | 支援学級を適正規模数に入れて、学級数にカウントすること。  | 1  |  |
| 297 | 多くの父母及び関係者から反対意見の表明がなされたにもかかわらず、教育行政提起の集約のあり方にはまったく賛同できない。行政のあり方とは「学校規模の適正化」の内容と市民との合致を図ることによって、さらなる「市教育行政の方針のすり合わせ」ではない。・道理、条理に基づいての発想を当初から堅持すべきである。・フィードバックの概念も念頭において「見通しと段取り、加えて着地点」の発想も大変に有益ではないか。・最終的には弁証法的な発想にたどり着くべきである。 | 1  | 今回、お示している基本方針(素案)では、今後の学校規模の適正化に向けた教育委員会の方向性を示したものです。今後、児童生徒数が減少することにより、小規模校が一層増加すると予測され、子どもたちの良好な学習環境を確保し、学校運営に支障をきたすことのないよう、小規模校の解消を最優先課題と位置づけ、取り組む必要があります。なお、高陵小学校と中宮北小学校の統合については、今後、児童生徒や保護者、地域への説明を十分行い、理解と協力を得ながら進めてまいります。 |
| 298 | 「子どもたちのためになる」が、一番の学校統合の理由なのか。   | 1  | 子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け、取り組んでいく必要があると考えます。  |
| 299 | 「学校の小規模化は教育環境への支障が懸念される」「単学級では新たな出会いや多様な考えに接する機会が少なく人間関係が固定化されお互いに切磋琢磨できにくい状況」とあるが、その検証データを示してほしい。  | 1  | 文部科学省が全国の市区町村教育委員会に対して行なった学校統合による成果に関するアンケート(平成26年5月1日時点)によると、児童・生徒への直接的な効果が「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」を合わせた肯定的評価の高い主な項目として、「良い意味での競い合いが生まれた」が89%、「友人が増えた」は96%になります。また、「多様な意見に触れる機会が増えた」は95%、「社会性、コミュニケーション能力が向上した」は85%という結果になっています。  |
| 300 | 市立小学校の適正規模を一律に18学級とすべきではない。   | 1  | 本市教育委員会では、国の基準を参考に、本市教育委員会の実情を考慮し「適正な学校規模を18学級とし、また、適正規模の範囲を小学校は12学級以上24学級以下、中学校においては9学級以上24学級以下とする」としています。  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|--|----|--|
| 301 | 「一小一中」というのは小中一貫校をすすめていくということなのでしょうか？   | 1  | 「一小一中」とは小学校単位で中学校の通学区域を構成すること(同じ小学校に通う児童が分かれることなく、一緒に1つの中学校に進学できる通学区域のこと)としております。本市教育委員会では、すでに小中一貫教育を行なっています。なお、施設一体型の小中一貫校については、課題の検証を行う必要があることから、今回の基本方針に記載していません。               |
| 302 | 議事録を見ると、小中一貫校については突然降ってわいた感が否めず、議論はほとんどなされていない。期限を作らずもっともっと時間をかけて議論するべきである。  | 1  |  |
| 303 | いろいろな要求がありますが、まずどんな学校をつくるのか論議されたい。   | 1  | 新しい学校を築くことについての議論は、統合となる学校の保護者、地域コミュニティ、学校、教育委員会等の代表者からなる(仮称)統合協議会において、どのような学校にしていくのかソフト面、ハード面の両面から議論されるものと考えています。   |
| 304 | 「学校規模適正化」と言いつつ、小規模校の統合のことしか出ていない。  | 1  | 学校規模については、少子化の進行により児童生徒数が減少し、小規模校が増加しており、今後も児童生徒数の大幅な減少が見込まれ、学校の更なる小規模化により教育環境や学校運営への支障が懸念されることから、基本方針【改定版】(素案)の中で最優先に位置づけお示したものです。  |
| 305 | 通学区域の変更は具体的にどこだろうか。明らかにしてほしい。  | 1  | 通学区域の変更は、決まったものではなく、今後、個々の課題の解消を行う際に検討すべきものと考えています。  |
| 306 | 学校規模適正化という表現で、将来少子化による小規模化する学校があるとして、小学校9校、中学校2校の統合が考えられているが、平成14年度～28年度間の生徒数は大きく変化していない。将来的にもあまり変動はないと思われる。   | 1  | 国立社会保障・人口問題研究所が、平成24年1月に発表した「日本の将来推計人口」によると、年少人口(0～14歳人口)は、平成22年の1,684万人から平成72年の791万人へと893万人(当初人口の53.0%)の減少が見込まれているとされています。人口減少の抑制を図るため、国を中心に全ての自治体等が様々な取り組みを進められている状況にあると認識しています。 |
| 307 | 校舎の老朽化で建て替えが必要であり建設費がかさむということであれば、小さな校舎を建てて建設費を抑えることもできると思う。   | 1  | ご意見のとおり、学校施設の整備に関しましては、経済性・効率性等も踏まえ、子どもたちの教育環境の向上のため取り組んでまいります。  |
| 308 | 中宮北小で行われた答申の説明会に参加したが、「小3で7人足りていないだけ」「小規模の学校とは思っていない」「中宮北小のゆきとどいた教育に感謝している」などの声が多く、杓子定規のように、ある一線で統合と決めてしまうことが難しいと感じた。その後、コミュニティとの協議に入ったように聞いているが、結論は出たのか。  | 1  | 中宮北小統廃合問題検討委員会と協議を行っており、引き続き協議を進めていきます。また、学校規模等適正化の取り組みは、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていきます。  |
| 309 | 枚方市学校規模等適正化基本方針を立案した前提を見直し、かつ第5次枚方市総合計画をふまえた総合的な方針を出すまでは、暫定的に1校2分校方式を採用するなどしていただきたい。そして、形式的には一校に統合し運営は一体化させ、さらにその活性化を図る支援策を講じることで、現状の小規模校としての良さ(2校体制を含め)を維持することを提案したい。この方法で、全体としては大きな変化を避けることが可能になると考える。 | 1  | 子どもたちにとって大きな変化を避けるための提案としていただきました。ただ、小規模校のままでは、現状の良さを生かすことに限界もあるため、適正化により、新しい学校を築いていく観点で、学校環境のさらなる整備・向上に取り組む必要があると考えています。  |
| 310 | 中宮北小学校と高陵小学校が統合した場合、のクラス数は中宮北小11クラス数+高陵小6クラス数=17クラスになるわけではない。計算すると14クラスになり、市が適正と言う18学級にならない。矛盾している。  | 1  | 適正な学校規模は、18学級ですが、適正規模校の範囲は、小学校では12から24学級です。  |
| 311 | 枚方市コミュニティ協議会がH28年度に調査している構成人員調表では、0歳～5歳人口 中宮北266名 高陵184名となっています。本当に統合を必要としているのは、高陵小校区のみではないか。教育委員会としての意見を聞かせて欲しい。  | 1  | 中宮北小学校は現在10学級で、2学年において単学級となっています。また、将来推計によると平成40年度以降は高陵小学校と同じ全学年で6学級になると予測されています。  |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 312 | 中宮北校区の合同宿舎は、100%の入居率では無いと思う。合同宿舎の現在の入居率をご教示いただきたい。100%になった時の生徒の増加率は、検討済みなのか。100%入居率時の、予想生徒数を「数値化」していただきたい。   | 1  | 平成28年9月時点の合同宿舎の入居率は約80%となっておりますが、毎年変動が激しいため参考となりません。また、今後、単身・独身を増やしていく方向とのことなので大幅な増加はないと考えています。   |
| 313 | WHOの学校規模基準は、100人を上回らない規模としていますが、この点について教育委員会としてはどの様に考えているのか。   | 1  | 学校規模等と教育効果に関するさまざまな研究が行われていることは、承知しています。ただ、WHOの学校基準につきましては、その基準を示した文書そのものの存在自体を確認することができませんでした。   |
| 314 | 5年人口推移を見るとおっしゃったと思いますが、どの様に見るんですか？その点も気になります。言い出したらきりがありませんが、とりあえず、あんな市役所に都合のいい方針はやめて頂きたいです。方針を出すならもっと、明確なものを出して下さい。   | 1  | 答申におけるほかの取り組み方策につきましては、今後の児童生徒数の推移を注視するとともに個々の課題への対応を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。今後は、答申において「できる限り早期」に実施することとされた高陵小学校と中宮北小学校の方策に取り組んでいくということを明確に示させていただきました。                                    |
| 315 | 明倫から中宮小に分離した時の自治会の意見を聞かなかったが、自治会の意見を聞いておれば今回の問題、明倫小を対象にする事はなかった。明倫小と中宮小の利便性は明らかに明倫小が中心に近い。府営上水道の導水管が中宮小学校の横を通り、導水管と小学校の高さが同じか学校が低い可能性があり、事故の場合、学校に水が流入し児童の安全が計られない。又、災害時の避難所として設定されているが、適さない不安全箇所であると考えられる。  | 1  | 明倫小学校区の適正化につきましては、児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。  |
| 316 | 改定前と何ら変わっていないと思う。学校名がはっきりと記名されている学校は高陵小学校と中宮北小学校となっており、改定前には対象校が記載されていたのに、改定版では不透明にしているのではないかと思う。  | 1  | 説明会において、統合の実施時期については、今後の児童・生徒数の推移を見定めることとされた検討対象校について、実施時期が未定であり具体的な校名を出すのはやめて欲しいという意見が多数出たことから、中宮北小学校と高陵小学校以外は検討対象校として具体的な校名を載せませんでした。   |
| 317 | 5年後の学校について、どう考えているかが示されていない。   | 1  | 今後の児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。   |
| 318 | 樟葉北小学校は統合対象校になっているが、樟葉小学校は対象からはずれている。何を基準にそうになっているのか理解できない。早急に校区の見直しをする必要がある。  | 1  | 適正な学校規模の範囲を小学校は12学級以上24学級以下としており、樟葉北小学校区の0歳～5歳児の人口を基に推計すると、今後、11学級以下となることから、小規模校で統合対象校になります。一方、樟葉小学校は、今後も小規模校とはなりません。なお、樟葉北小学校区の適正化につきましては、児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。 |
| 319 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 2. 適正化の実施 (1)学校規模②学校統合について イ.学校統合の取り組み (a)で「できる限り早期」とあるが、(b)では 他の取り組み方策については(中略)5年程度を目途とし改めて示していくとなっている。すなわち「できる限り早期」とは、5年以内ということではないか。また、基本方針の改定が平成29年6月のため、「できる限り早期」が5年以内ということなら、具体的な適正化方策を取りまとめた「実施プラン」作成は2年しかない。この2年間で、コミュニティ問題を解決し、「実施プラン」がまとまることができると考えているのか。 | 1  | 「他の取り組み方策は5年程度を目途として改めて示していく」としてはありますが、高陵小学校と中宮北小学校の取り組みの期間と関係ありません。学校統合にあたっては、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めていく必要があると考えています。   |
| 320 | 「東香里」という地域の特性を残したい。  | 3  | 東香里小学校区の適正化につきましては、児童生徒の推移を注視するとともに、個々の課題を検討する中で、5年程度を目途として改めて示してまいります。しかし仮に、統合に向けて話し合われる場合は、地域の特色ある活動など残すなど、(仮称)統合協議会において協議を行ってまいります。  |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方  |
|-----|---|----|--|
| 321 | 学校統合にあたっての留意事項内に、総論では統合の対象となったとしても、「各地域毎の特性やニーズを深掘して、本当にそれでも統合が必要かどうかの検討は別途実施する」という内容を盛り込むべきではないか。(統合の見直しも含めて、再検討の余地を入れるべき。)                              | 1  | 高陵小学校は、平成20年度から小規模校になり、平成23年度以降は全学年で6学級となっており、将来ともその状態は継続すると予測されています。また、中宮北小学校は平成26年度から小規模校となっており、平成40年度以降は全学年で6学級になると予測されています。両校区はほとんどが住宅地であり、適正規模の範囲になる程の児童数の増加は見込めません。このような状況から、各学校との統合案を検証・評価した結果、高陵小学校、中宮北小学校ともに、通学距離や通学様態、校区範囲と学校の位置関係、中学校区との関係等から、高陵小学校と中宮北小学校との統合案が最善の方策であるとの結論に至りました。 |
| 322 | 春日小学校周辺は交通量が多いので通学路が危険、騒音問題、環境問題があるのでは。   | 1  | 統合の結果、通学距離が伸びる児童も増えることは想定しています。対応として、歩道やガードレールの設置など、様々な面で児童の安全を守りたいと考えます。なお、春日小学校において、騒音等、環境問題はありません。  |
| 323 | 通常学級の学級数だけで判断する適正化は、実際の学校現場を考慮した適正化とは言えない。教育活動には特別教室や更衣室、ゆとりのスペースも必要である。  | 1  | 学校統合における保有教室数の考え方は、少人数教室や更衣室、PTA教室など必要な教室も考慮した統合方策となっています。   |
| 324 | 万が一、氷室小学校が小規模校になる際には、通学距離や通学方法なども考慮してほしい。   | 1  | 現在、検討対象校となっていませんが、氷室小学校の場合は、隣接する校区との距離が非常に離れているため、別途、方策について検討する必要があると考えています。   |
| 325 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 3. 適正化の留意事項 (3)少人数指導などに使用する多目的な教室として、3室程度を確保とあるが、適正規模は18学級すなわち1学年3学級で1学級40人の場合 少人数指導の人数が3室確保だと1学級分しか確保できないが、今の少人数指導を考えると少ないのではないか。   | 1  | 適正規模の学校で、少人数授業を行うのであれば、3教室あれば十分可能です。   |
| 326 | 第3 学校規模等の適正化に関する基本方針 3. 適正化の留意事項 (5)直ちに適正化に取り組むことが難しい場合、小規模校活性化のための支援策を講じる必要があると示されているが、直ちにとはどの位の期間を指すのか。また、中宮北小と高陵小の場合、まず、小規模校活性化のための支援策を講じる必要があるのではないか。 | 1  | 期間は特に定めていませんが、小規模校となった時点で小規模校活性化の取り組みを行う対象となります。なお、中宮北小学校と高陵小学校は、観劇や校外学習を小規模校活性化の取り組みとして合同で実施しています。  |
| 327 | 基本方針【改定版】(素案)のP12資料2将来推計による小規模校・大規模校・過密校一覧に学校別のクラス数は掲載しているが、児童数、生徒数の推計が無い。  | 1  | 適正な学校規模を学級数で判断しているため、資料2では、児童生徒数の推移を載せていません。   |
| 328 | 財政の事が全く触れられていない。統廃合に伴うお金の事を正面に出した議論が必要だ。説明会の時には「教職員の人件費は府から出ており、関係がない」と答弁があったが、何故、説明会で中北小の売却を明言したのか。  | 1  | 教育委員会として、子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に、教育環境の更なる整備・向上に向けて取り組んでおります。今後は財政面や跡地利用等についても、検討していく必要があると考えています。防災拠点のあり方も含め、保護者や地域の方々のご意見もお聴きしながら、市としての方策を検討する必要があります。なお、説明会において、一部敷地を売却する方策は、選択肢の一つとして説明させていただきました。人件費の件は教員の多くは府費、学校の建設費等は市費でまかさないです。  |
| 329 | 改定版といいつつ以前とどこが変わったかも示さず意見を寄越せという姿勢は市民の意見をとりあえず形聞きましたという形を残したいという意図が見えている。相手に分かりやすく提示をしたうえでフェアに意見を聞くのが常識だが、全く納得できない会議録の次にいきなり基本方針の改定が出てくるのも理解に苦しむ。         | 1  | 定められたパブリックコメントの方法に従い、意見を募集しました。改定版ということで、改定箇所をお示しする方法もありましたが、そのことにより、資料が増えるなどわかりにくくなると判断したものです。会議録につきましては、校区に確認のうえ、掲載させていただきました。   |

| NO  | ご意見の要旨  | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|---|----|---|
| 330 | 地域に居住されている方に対して、どのようにして意見を聞くのでしょうか？インターネット環境もないなかで、しっかりと考えなければいけないと感じます。                                      | 1  | インターネット環境がない方に対しては、本市の拠点施設である、市役所本館・別館受付、各支所・生涯学習市民センターなど15箇所に意見回収箱を設置し意見をお聞きしております。  |
| 331 | 市のホームページから出しにくく、支所などに取りに行った。ホームページの改善を求める。  | 1  | 平成29年4月1日より、枚方市ホームページがリニューアルされました。市民の方にわかりやすく情報が提供できるよう、より一層努めてまいります。   |
| 332 | 前回の地元説明会での市民とのやり取りの議事録がないなど、役所として最低ではないだろうか。  | 1  | 「学校規模等適正化に関する説明会」の会議録は、枚方市ホームページで公開しております。  |
| 333 | 昨年の答申を出す審議会では小学校の統廃合に異論がたくさん出ていますがそれらの点がどんなふうにもとめられたのか、学識経験者の先生たちはどんな意見を述べられたのかわかりません。                        | 1  | 義務教育段階である小・中学校は、児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養うことが目的であるため、学校では単に教科等の知識等を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力等を育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要になります。そうした教育を行うためには、一定規模の児童生徒集団が確保されていること等が望ましいことから、学校配置等の適正化によって教育環境の改善を図る必要があります。このことを前提として、答申として取りまとめられています。 |
| 334 | 回故、このタイミングで基本方針素案の発表なのですか？□   | 1  | 枚方市学校規模等適正化審議会より平成28年3月に答申を受けました。その後、おおむね1年をかけ、各地域への説明会開催や勉強会へ参加するなどしてまいりました。また、過去の市内における統合の経緯を踏まえ、拙速にならないよう慎重に検討してまいりました結果、おおよそ1年後になりました。  |
| 335 | 答申の案に対する意見募集の結果はどのような物が多かったのでしょうか？  | 1  | 「小規模校の課題がわかりにくい。明確に記載が必要だ。小規模校はデメリットだけでなく、メリットもたくさんあると述べられているのに、なぜ学級数で機械的に課題とするのか。メリットを生かした教育による小規模校を存続させるべきである。」という意見が38件で最も多い意見でした。教育委員会におきましては、多くのご意見を大切にしたいという思いはありますが、小規模校には課題があり、子どもの教育環境の改善のため、小規模校の解消を最優先課題と位置づけ取り組む必要があると考えています。   |
| 336 | 答申の説明会の終了後、どのような意見が多かったのですか？正規分布で言う1σ 辺りの意見を数件お答えください。HPに掲載されているのでそちらをご覧くださいと言う返事ではなく、改めて教育委員会からの言葉をお聞かせください。 | 1  | 「小規模校のメリット・デメリット」「小中一貫校」「校区コミュニティ」「今後の進め方」「跡地活用」等に関して、多くのご意見をいただきました。   |
| 337 | 説明会時の市の方々のやるきのない、寝ている方、市民の声に逆切れする方、やっつけ仕事では地域住民と一緒に考えていこうという姿勢にはなれない。先行して進める以上覚悟をもって臨んでいただきたい。                | 1  | 学校規模については、少子化の進行により児童生徒数が減少し、小規模校が増加しており、今後も児童生徒数の大幅な減少が見込まれ、学校の更なる小規模化により教育環境や学校運営への支障が懸念されます。本市教育委員会では、子どもの健やかな成長と学校教育の充実を第一義に教育環境のさらなる整備・向上に向け、取り組んでいく必要があると考えます。また、学校規模等適正化の取り組みは、当該学校の児童生徒や保護者、当該学校に関係する地域コミュニティなどへの十分な説明を行い、理解と協力を得ながら進めてまいります。   |

| NO  | ご意見の要旨   | 件数 | 教育委員会の考え方   |
|-----|--|----|---|
| 338 | 文部科学省は、「行政が一方向的に決める」ことにならないように、「統合の適否」を検討する段階から、保護者・住民への十分な説明、情報公開、意見反映を行うことを述べているが、今回の素案の提案や、パブコメの募集は「統合の適否」を検討する段階をすでに超えているのではないかと思う。この点でも、住民の皆さんに対して、行政のもつ姿勢としておかしいのではないかと思う。 | 1  | これまで審議会の答申における12回の説明会を実施し、意見を聞いてまいりました。この度、答申を踏まえるとともにいただいたご意見を参考にとりまとめた基本方針の素案について、パブリックコメントを実施しています。今後、基本方針が定まりましたら、具体的な統合方策を示す学校規模等適正化実施プランの策定に向け、高陵小学校と中宮北小学校につきまして説明会を開催し、理解と協力が得られるよう取り組みを進めてまいります。   |
| 339 | 高陵地区の住民から聞く話は、「中宮北が反対しているため統合が滞っている」「高陵小学校を新しく建て替えて、中宮北が来る」「中宮北地区と高陵地区とのコミュニティの統合は難しいので、学校だけを統合してコミュニティは統合しない」という話が公然とされている。高陵地区での説明会でそのようなことをいっているのか。                           | 4  | 高陵小学校の説明会において、統合校は改築するののかという質問に対し、「統合校は新たな学校として整備改修していきたいと考えている」とお答えしています。また、学校が統合されても、校区コミュニティ協議会の合併は1年から2年先に延ばすことができるのかという質問に対し、今後(仮称)統合協議会を設置する中で、それぞれの校区コミュニティ協議会において検討されるものと考えていますとお答えしています。また、「中宮北小学校が反対しているため統合が滞っている」との説明は一切していません。                             |
| 340 | 学校の行事が人数が少なく盛り上がらないというなら大きな行事だけ合同ですということもできるのではないかと思う。先生方の負担が増えるのであればその仕事も合同でできるように考えることもできるのではないだろうか。   | 1  | 既に合同で行っている行事もありますが、子どもたちには一時的なものではなく常態的に一定規模の児童生徒の集団の中で社会性や規範意識を身に付けさせることが重要であると考えております。なお、学校間での教員の事務分担は困難であると考えております。  |
| 341 | 小学校の英語教育を開始するにあたっては、更なる少人数教育(1クラス18人くらい)で英語専門教師、NETなどを配備してほしい。現在の学級規模での英語教育は効果が薄いと思う。私自身は中学校で18人クラスの英語教育をさせてもらい、大変教育効果があったと実感している。   | 1  | 次期学習指導要領において、5、6年生では教科型の外国語教育を、3、4年生では外国語活動が行われます。初めて外国語に触れる児童が多数いること、個に応じた支援が必要な児童が増えてきている状況を鑑み、少人数授業を実施することはご指摘のとおり、教育として一定の効果があると考えられます。一方、課題として各校におけるJETの配置人数や法律に定められた教師の配置人数が決められており、算数に加え、外国語教育や外国語活動で少人数授業を実施するとなると現状では実現は難しいと考えます。しかし、貴重なご意見として今後の参考とさせていただきます。 |
| 342 | 万が一東香里がなくなることになったらせめて小学校を選べるようにしてほしい。例えば香里小など。遠くなくても安心して預けられる選択肢がほしい。  | 1  | 本市教育委員会では、小学校は、住所により指定校が決まっているため、学校の選択はできません。   |
| 343 | 村野小中学校のとき、新しい統合校でさまざまな問題が起きたことを聞いている。  | 1  | 統合の実施後、当初は、児童・生徒が戸惑いを見せる場面もあったが、徐々に慣れ、明るく元気に登校しているといった報告を聞いております。なお、校区コミュニティの融合において、しばらくの間、課題があったことは承知しています。  |
| 344 | 以前の北牧野小と牧野小の統廃合では牧野小学校が統合後児童がふえて大規模校となり、教室が足りないなど子どもに負担をかける事態となった。二度とそんなことにはならないと思う。   | 1  | 牧野小学校は、平成12年の統合時22クラスとなり、平成20年21年と24クラスと適正規模校として推移してきていますが、2年間過密校となりました。今後、学校統合を行うにあたりましては、常態的に大規模校や過密校とならないよう取り組みを進めてまいります。  |

件数合計 445